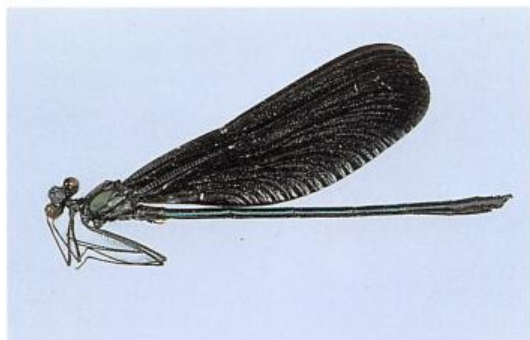
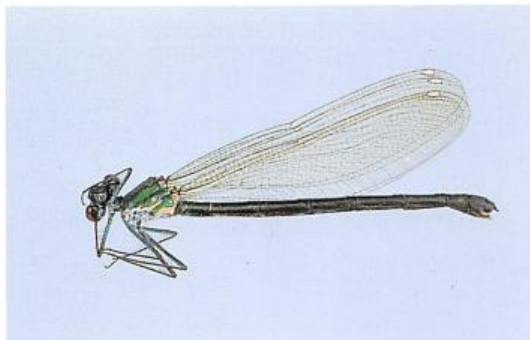

路傍300種に親しむ運動

昆 虫 < 県本土編 >

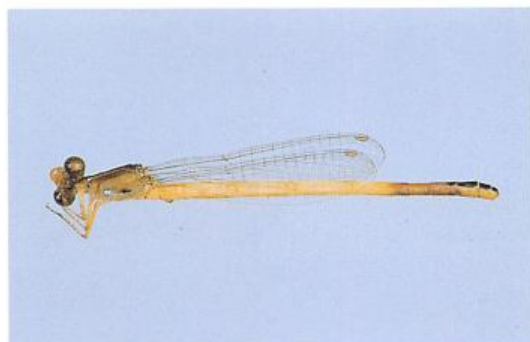




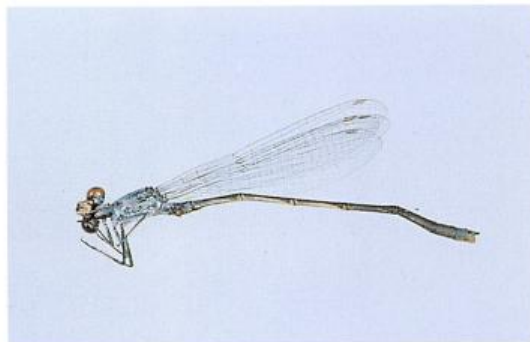
141 ハグロトンボ (60)



142 ニシカワトンボ (60)



143 キイトンボ (60)



144 クロイトトンボ (61)



145 タイワンウチワヤンマ (61)



146 ヤマサナエ (61)



147 ギンヤンマ (62)



148 オニヤンマ (62)



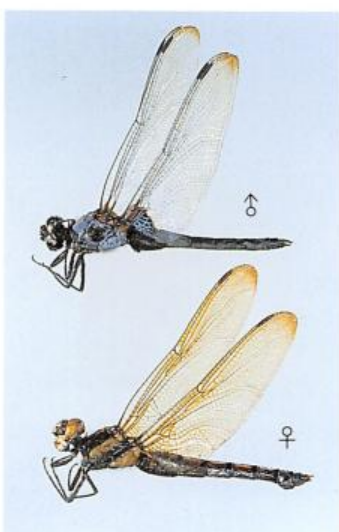
149 ハラピロトンボ (62)



154 チョウトンボ (64)



150 シオカラトンボ (63)



151 オオシオカラトンボ (63)



152 マユタテアカネ (64)



153 ウスバキトンボ (63)



155 ハッチョウトンボ (64)



158 エダナナフシ (65)



156 カマキリ (65)



157 サツマゴキブリ (66)



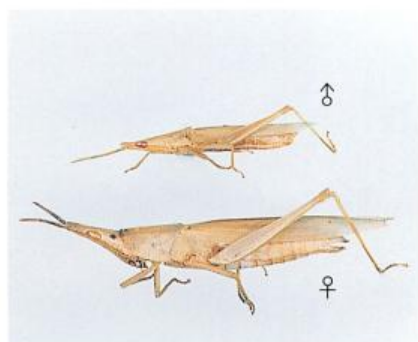
160 エンマコオロギ (66)



167 アオクサカメムシ (69)



168 ホソヘリカメムシ (69)



162 オンブバッタ (67)



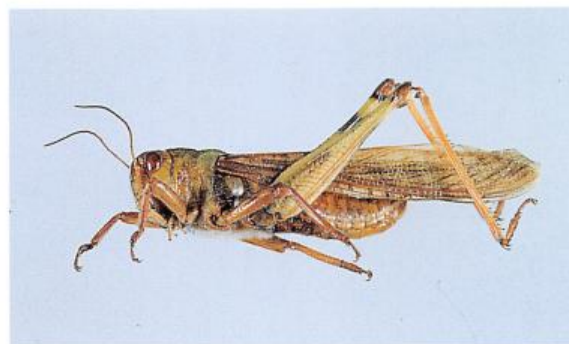
165 ハネナガイナゴ (68)



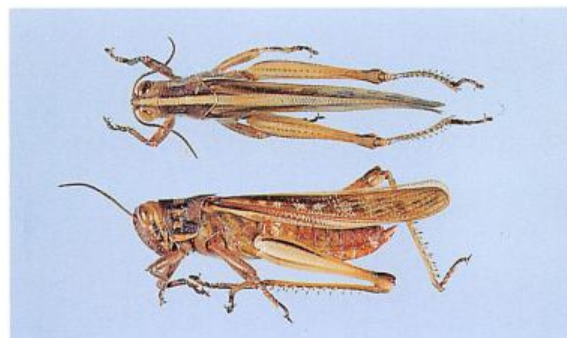
169 アメンボ (69)



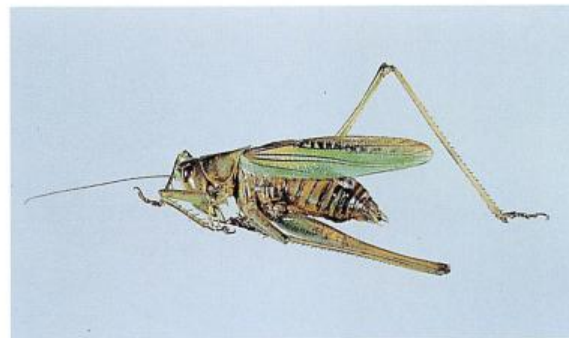
161 ショウリョウバッタ (67)



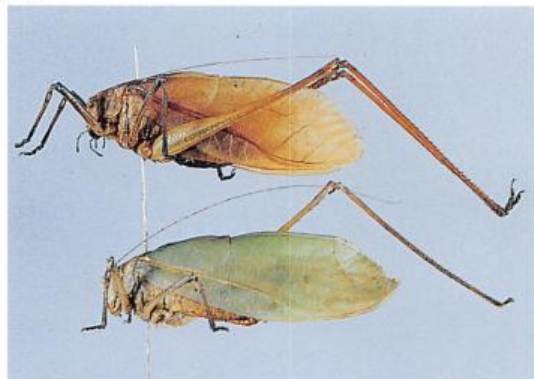
163 トノサマバッタ (67)



164 ツチイナゴ (68)



166 キリギリス (68)



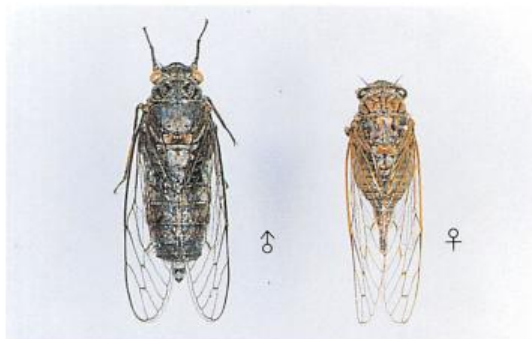
159 クツワムシ (66)



171 クマゼミ (70)



172 ニイニイゼミ (70)



173 ハルゼミ (71)



174 ツクツクボウシ (71)



170 アブラゼミ (70)



177 タイコウチ (72)



175 アオバハゴロモ (72)



178 ヤマトシリアゲ (73)



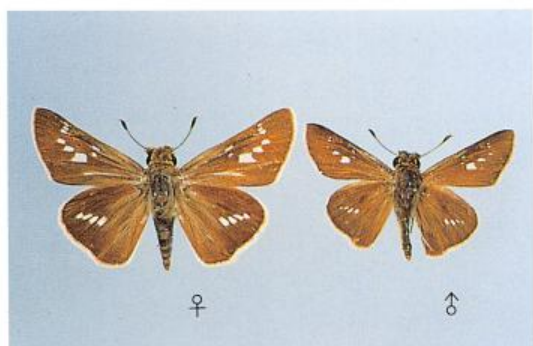
176 シロオビアワフキ (72)



179 ツノトンボ (73)



180 ホシウスバカゲロウ (73)



181 イチモンジセセリ (74)



189 ムラサキシジミ (77)



183 アゲハチョウ (75)



184 キアゲハ (75)



185 ナガサキアゲハ (75)



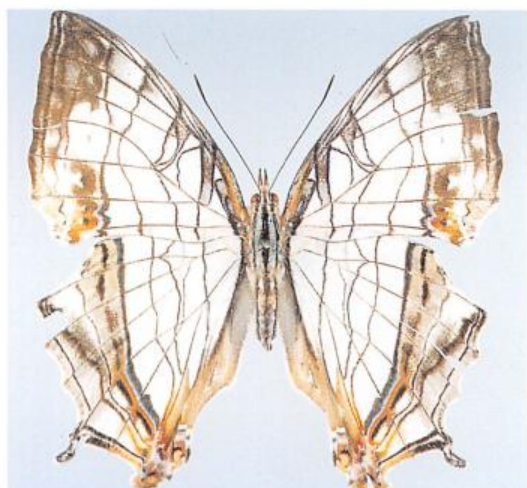
182 アオスジアゲハ (74)



191 アサギマダラ (77)



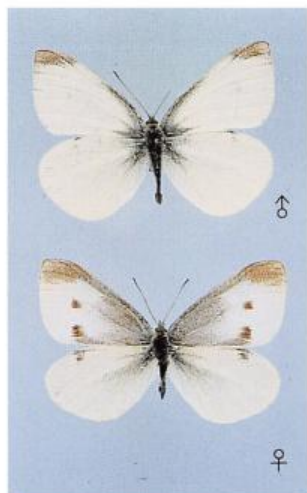
186 モンキアゲハ (75)



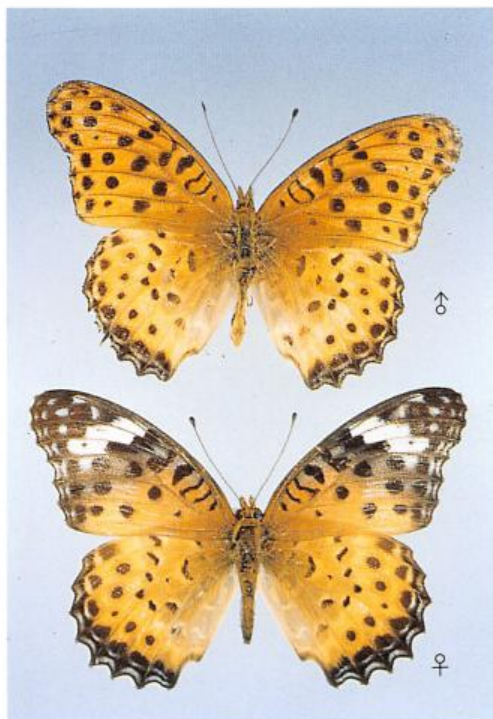
194 イシガケチョウ (78)



190 ヤマトシジミ (77)



187 モンシロチョウ (76)



192 ツマグロヒヨウモン (78)



188 キチョウ (76)



195 コミスジ (79)



193 アカタテハ (78)



196 ヒメウラナミジャノメ (79)



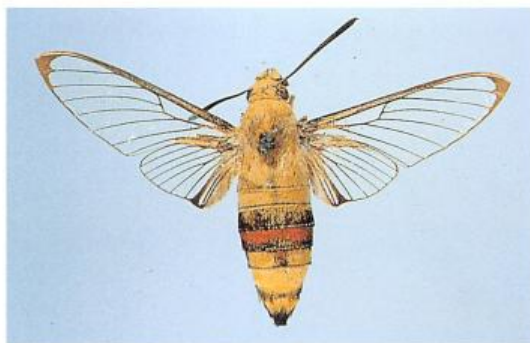
197 クロヒカゲ (79)



198 クロコノマチョウ (80)



199 エビガラスズメ (80)



200 オオスカシバ (80)



201 シンジュサン (81)



202 オオトモエ (81)



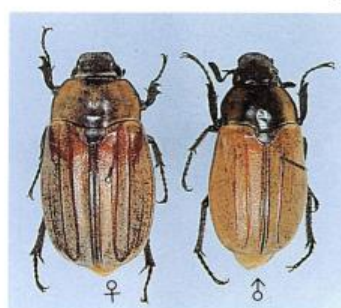
203 トンボエダシャク (81)



204 サツマニシキ (82)



205 ハンミョウ (82)



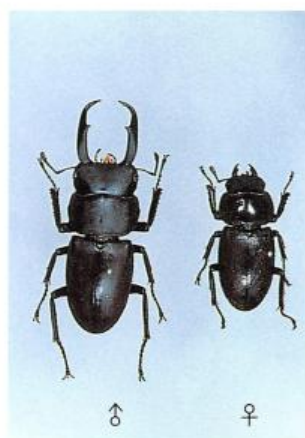
211 サツマコフキコガネ (84)



210 カブトムシ (85)



208 ノコギリクワガタ (83)



209 コクワガタ (83)



206 マイマイカブリ (82)



216 タマムシ (86)



217 ウバタマムシ (86)



219 ゴマダラカミキリ (87)



207 オオミズズマシ (84)



212 マメコガネ (84)



220 クロウリハムシ (87)



222 ヘイケボタル (88)



221 オオゾウムシ (88)



213 カナブン (85)



214 シロテンハナムグリ (85)



215 アオドウガネ (86)



223 クロオアリ (88)



224 コガタズメバチ (89)



226 クマバチ (89)



225 フタモンアシナガバチ (89)



229 ウシアブ (90)



230 シオヤムシヒキ (91)



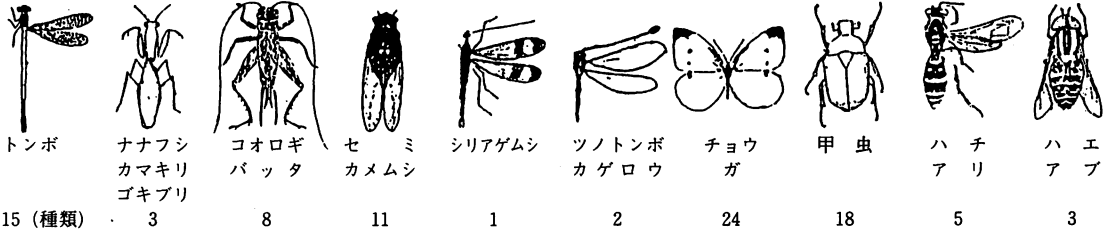
228 ハナアブ (90)



227 ミツバチ (90)

昆 虫

1. 選ばれた昆虫90種の内わけは次のとおりです。



取りあげなかった虫がたくさんいることも、心にとめておきましょう。

2. 種類ごとに次のような項目で解説しました。

- 時期** 成虫がよく見られる期間を示します。
- 場所** 地名でなく、住んでいる環境を重視しました。
- 解説** 生活史や生態など、探し方のヒントが記してあります。
- 似た虫** 分類上の近縁種に限らず、見かけ上の類似種も取り上げました。区別点は最も簡単なものを1～2点あげるに留めてあります。

大きさは図鑑からの引用が多いのですが、○～○mmは変異の幅を、○mmは平均値を示し、統一されていません。いずれ本県産の標本に基づく測定値が必要と思います。

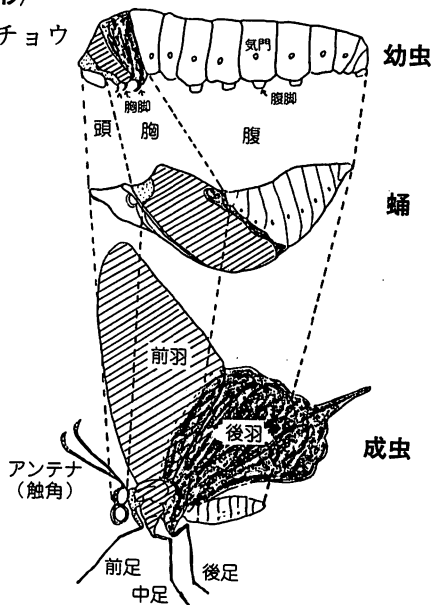
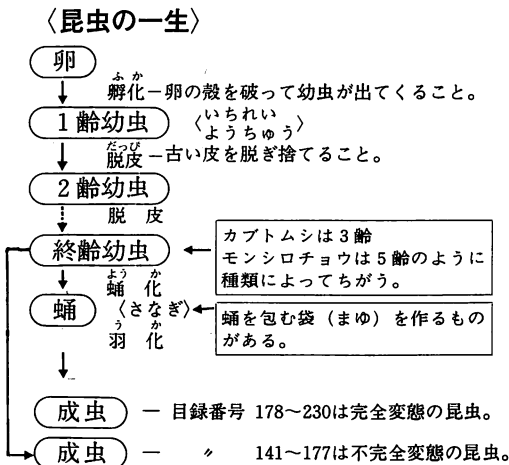
色の記述はあまり忠実でなく、一見した感じを主にして略記しました。

3. 路傍300種(昆虫90種)の中に選ばれていない種で、この解説集に取りあげた種(153種)の目録を後に付けてあります。

〔用語などの解説〕

〈昆虫の形〉

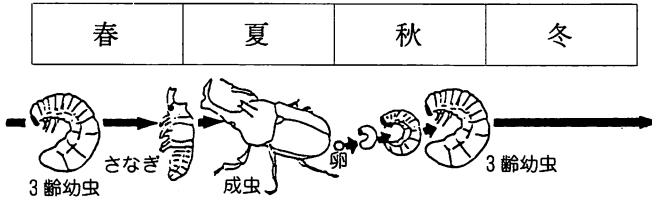
♂・♀ (おす), ♀ (めす) 例. アゲハチョウ
 食草・食樹—幼虫が食べる草や木。



取り組みの手引き

昆虫の探し方のコツ (5つのポイント)

1. 虫が1年をどう過ごしているか(周年経過)を知る。



2. 卵・幼虫・蛹にも気をつける。
成虫より数は多いので意外に探しやすい。

腐葉土・たい肥・おがくず
樹液・果物

3. 虫の食べ物を見つける。

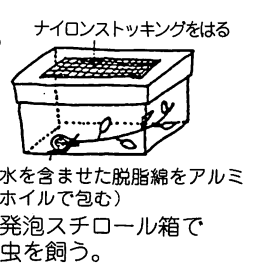
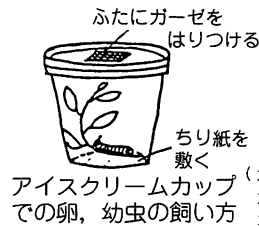
4. 虫の日課表を知る。



5. 虫の生活のあとに目をつける。
新しい虫食いあと、糞など。巣やぬげがらも。

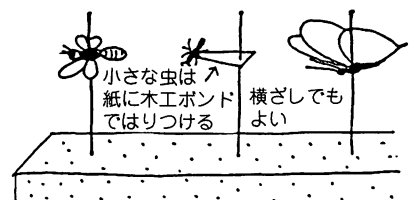
虫を育ててみましょう。

虫をつかまえたら、ビンやポリ袋に入れて持ち帰り、飼育してみましょう。虫かごにゴチャゴチャ入れないで、1匹ずつ葉や枝をつけたまま、暗く涼しい状態で運びます。簡単な飼い方は右の通りです。ただし、最も大切なことは、虫への愛情です。



死んだ虫は標本に

体が柔いうちにポリ袋に入れて冷凍(解凍すればいつでも標本が作れる)→針をさして10日位乾燥(右図)。薬品不要,ゴキブリに注意→発泡スチロール箱にガラスを張って標本箱にする(ナフタリンを入れる)。標本は虫めがねでじっくり形を調べる時にどうしても必要なものです。



141 ハグロトンボ (カワトンボ科)

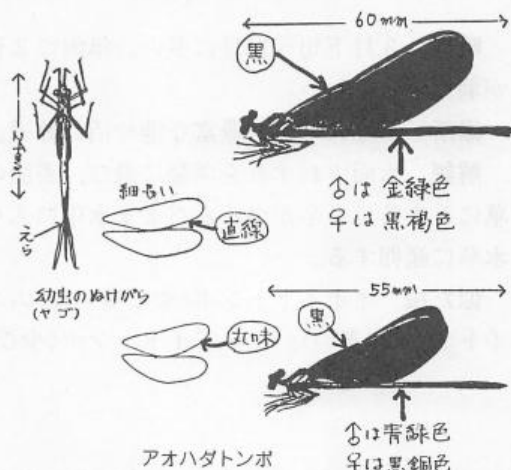
時期 5月中旬～10月

場所 水草の多い、ゆるやかな流れのほとり。土手にやぶのあるところ。平地～低山地。

解説 水面の水草や、岸辺の草などにとまり、ときに水面をすいすい飛ぶ。

“おはぐろとんぼ”が別名。

似た虫 アオハダトンボ：県内では大口市と栗野町（絶滅？）だけでとれている。5～6月にしかいない。もっと産地を探してみよう。



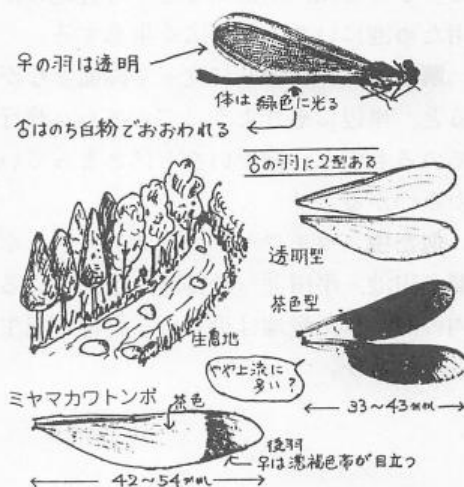
142 ニシカワトンボ (カワトンボ科)

時期 3月下旬～6月。4～5月に多く、春～初夏の山歩きの時、よく目につく。

場所 山地の溪流ぞいの林間に多いが、低地の人家周辺でも清流があれば、かなり普通に見かける。

解説 川べりの低木やスギ林の中などにとまっている。人が近くを通ると飛び立つが、すぐにとまる。ヤゴ（幼虫）は水草や岩にくっついている。

似た虫 ミヤマカワトンボ：より大型で谷川（上流）の水面近くを飛びまわっている。



143 キイトンボ (イトトンボ科)

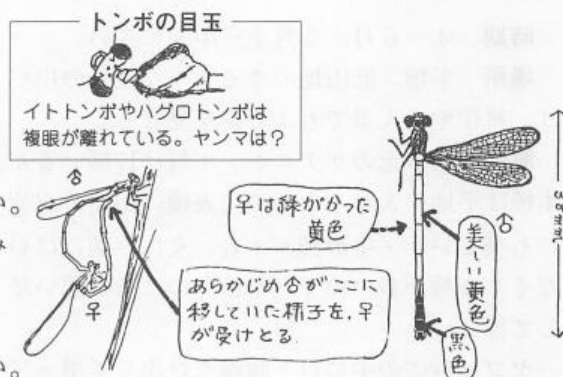
時期 5～10月、とくに7～8月に多い。

場所 平地の水草の多い池や沼によくみられる。

解説 水辺の草によくとまる。

似た虫 黄色のイトトンボは他にいない。

このほか、濃いオレンジ色のリュウキュウベニイトトンボも多い。県本土のイトトンボ類は17種いる。虫めがねを使って区別してみよう。



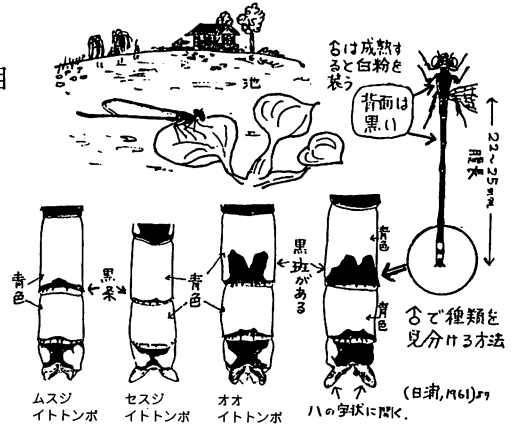
144 クロイトトンボ (イトトンボ科)

時期 3月下旬～10月に多い。年内に2世代目が羽化するらしい。

場所 平地の水草の豊富な池や沼に普通。

解説 水面すれすれを活発に飛び、表面の水草にとまる。♂♀がつるんだまま水中に入り、水草に産卵する。

似た虫 オオイトトンボ(やや多い)、ムスジイトトンボ(多い)、セスジイトトンボ(少ない)



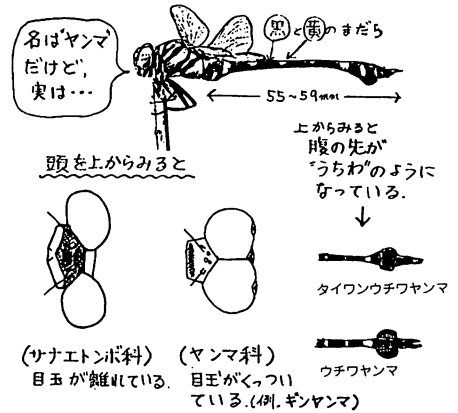
145 タイワンウチワヤンマ (サナエトンボ科)

時期 5～9月

場所 平地のやや水草の少ない池沼に見られる。さつま湖、池田湖などから各地のかんがい用ため池にいたるまで広く生息する。

解説 池のほとりに立って湖面をながめていると、岸边にそうように“おまわり飛行”をしているものと、棒ぐいなどにとまっているものがみつかると。

似た虫 ウチワヤンマ (サナエトンボ科) : 蘭牟田池、平田池 (始良町) などにいるが、県内の知られた産地は少ない。両種が混生したらどうなるか。



146 ヤマサナエ (サナエトンボ科)

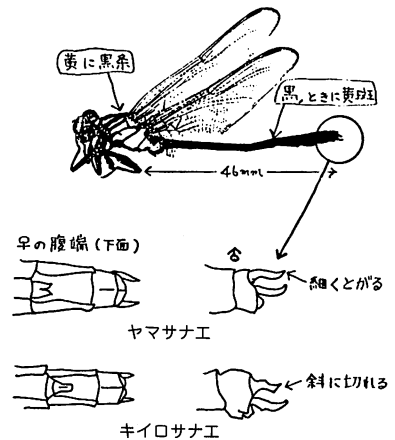
時期 4～6月。5月上～中旬に多い。

場所 平地。低山地のゆるやかな流れの川べり。耕作地や人里でもよく姿を見せる。

解説 県本土のサナエトンボ科は17種いるが、本種は平地の大形サナエの代表種。山間の溪流にも美しい小・中形種がすむ。夏休み前にはいなくなる種が多いので“早苗”のころに思いだしてほしい。

ヤゴは砂泥の中に目と腹端だけ出して潜っている。溝川の岸辺でぬけがらも見つかるはず。

似た虫 キイロサナエ：少ない種らしいが、5月下旬～6月上旬にさがせば……。



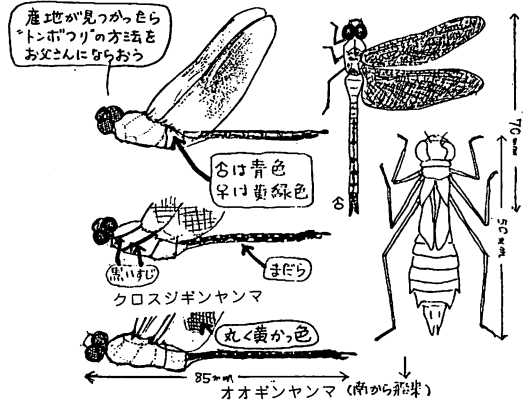
147 ギンヤンマ (ヤンマ科)

時期 4月～11月

場所 水草の多い、明るい池や沼、水田や溝などで羽化。水辺を離れた畑などにも見られる。

解説 卵は17～18日でふ化、幼虫は13回脱皮して14齢となり、300～330日かかって成虫になる。初夏に産まれた卵は翌春にトンボになるはず。しかし、本県ではまだ卵から成虫になるまで飼った人はいない。

似た虫 クロスジギンヤンマ (4～6月)



148 オニヤンマ (オニヤンマ科)

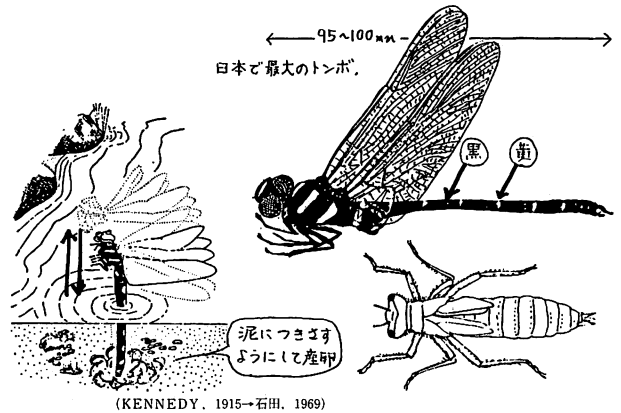
時期 6～9月

場所 平地や山地の小川、湿地など底が砂泥質の水たまり。よく路上を往復して飛ぶ。

解説 左右の目玉が1点で接している。幼生期は2～3年。

似た虫 名前の似ているコオニヤンマ (サナエトンボ科) は左右の目玉が離れている。

ミナミヤンマ：羽の前縁に黒条がある。



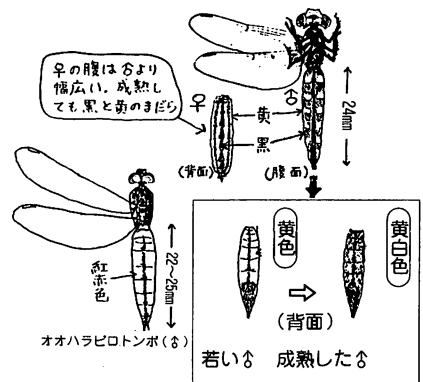
149 ハラビロトンボ (トンボ科)

時期 4月下旬～9月

場所 水草の多い平地や沼。ちょっとした湿地にも生息するが、近年は休耕田などでも発生している。

解説 池沼の中や周辺の草などに、よくとまっている。名前のお通り腹部が幅広くやや扁平なのですぐわかるが、おすは成熟すると色が変わるので要注意。

似た虫 オオハラビロトンボ：古い樹林に囲まれた古い池にすむ。加世田市などに少数の産地がある。



150 シオカラトンボ (トンボ科)

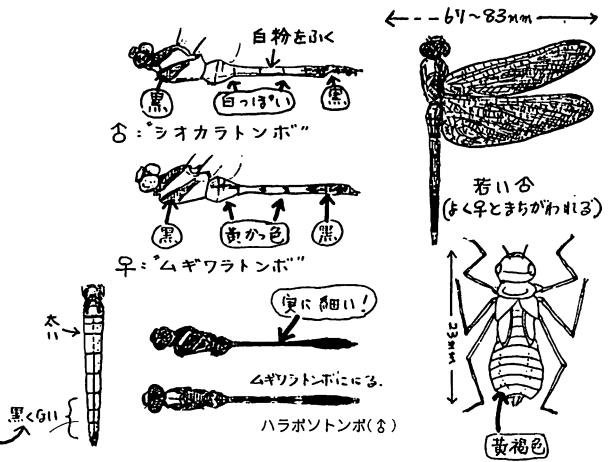
時期 早ければ3月下旬。普通は4月から羽化, 10月頃まで見られる。

場所 池, 湿地の水たまり, 水田, 溝川などの水中で幼虫が育つため, 低地の人里にも多い。

解説 若い♂は♀に似るが成熟すると白粉をふいて“塩からとんぼ”の姿になる。羽化後何日目あたりからだろう。♀はムギワラトンボ。

似た虫 ハラボソトンボ: 霧島や指宿などの温泉地に多い。

シオヤトンボ: 3~6月のみ。



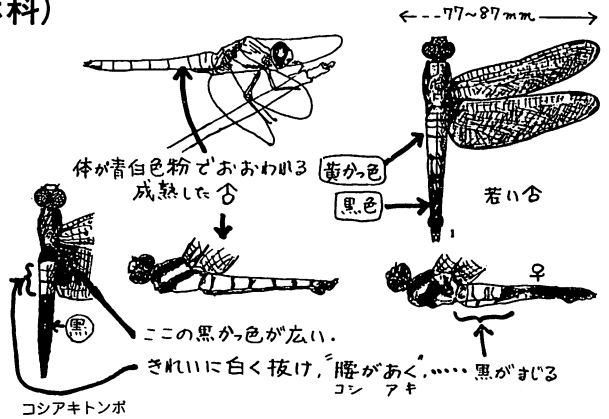
151 オオシオカラトンボ (トンボ科)

時期 5~10月

場所 林縁の浅い池, 水たまりや流れのゆるやかな溝川のあたりに多い。人里にもよく見られ, 庭の池にやって来る。

解説 シオカラトンボとの住み場所のうばい合いはないのかな?

似た虫 コシアキトンボ: 池の上を往復している。



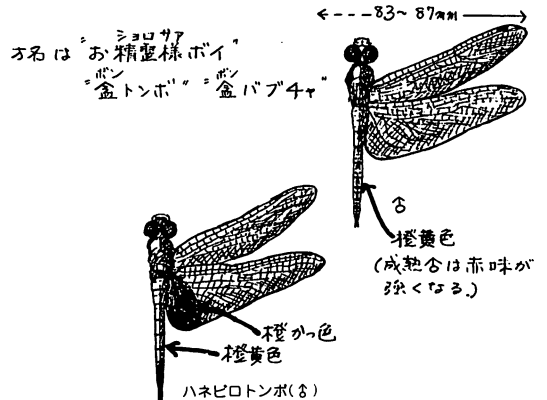
153 ウ斯巴キトンボ (トンボ科)

時期 5~12月

場所 池, 水田, 溝川, プール, 貯水槽などで発生し, 水田, 校庭, 川の堤防などの上を群れをなして飛びまわっている。

解説 冬には死に絶えて, 毎年, 春~夏に気流に乗って飛来し, 秋まで発生をくり返す。むし暑い南風が吹き込んだ翌朝, びっくりするくらい数が増えていることがある。卵から1ヶ月で成虫になるらしい。

似た虫 ハネビロトンボ: ウ斯巴キトンボに混じってゆうゆうと飛んでいる。

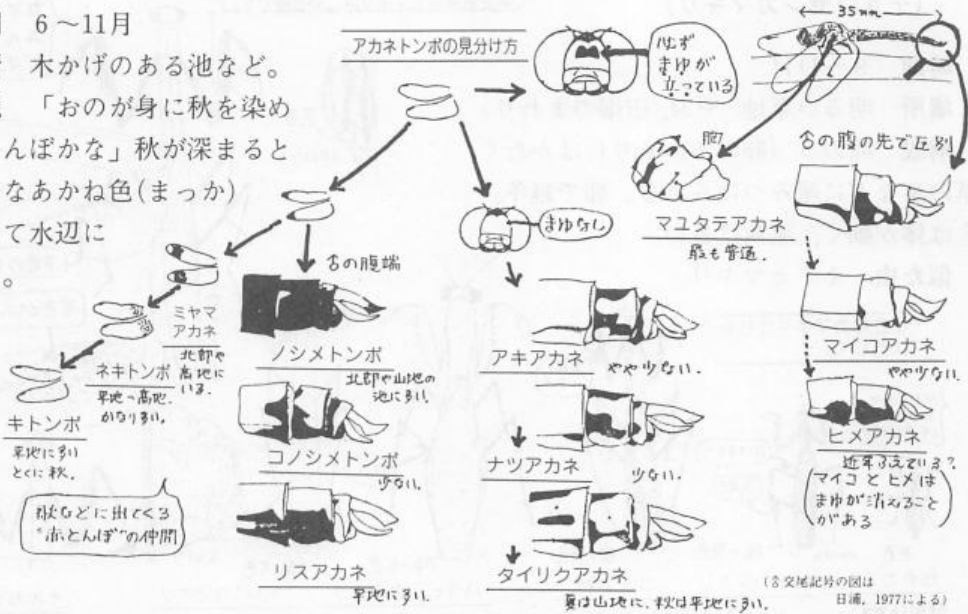


152 マユタテアカネ (トンボ科)

時期 6～11月

場所 木かげのある池など。

解説 「おのが身に秋を染めぬくとんぼかな」秋が深まると鮮やかなあかね色(まっか)になって水辺にもどる。



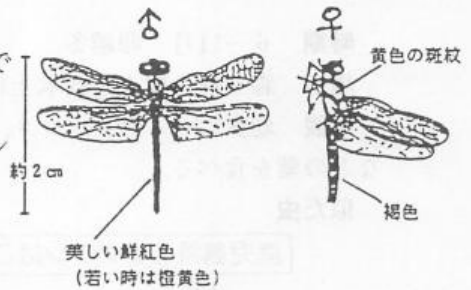
155 ハッチョウトンボ (トンボ科)

時期 5月中旬～10月中旬。最盛期は5月下旬～8月。

場所 明るい湿原，水源に近い休耕田や湿田。市街地でも造成地の草の繁った水たまりなどで見つかることもある。

解説 雌雄とも体長2cmぐらいで，トンボ類(イトトンボを除く)では最も小さい。

似た虫 いない。



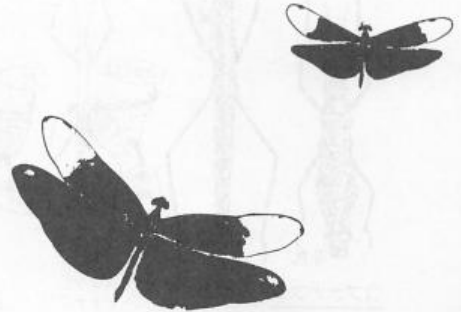
154 チョウトンボ (トンボ科)

時期 6～9月。数の多い時期はやや短いので注意。

場所 平地の水草の多い池や沼，湿地，溝川などに多い。

解説 羽化後まもなく若いトンボは，近くの樹林の上をひらひらと蝶のように舞っている。成熟した♂は水辺にもどり，水面の上空1～2mのあたりを飛びまわり“なわばり”をつくる。羽も体も黒っぽい，よく見ると美しい金属光沢がある。腹長22mm内外。

似た虫 いない。



新緑の上を青空をバックに軽快に舞う。

156 カマキリ (カマキリ科)

(チョウセンカマキリ)

時期 8~11月

場所 明るい草地、やぶ、田畑のまわり。

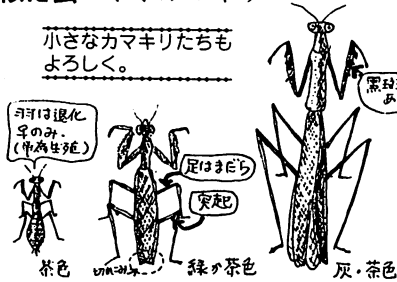
解説 卵のう (卵のあつまり) はかたく、草の茎などに産みつけられる。卵で越冬。

♂は体が細く、触角は長い。

似た虫 オオカマキリ

小さなカマキリたちもよろしく。

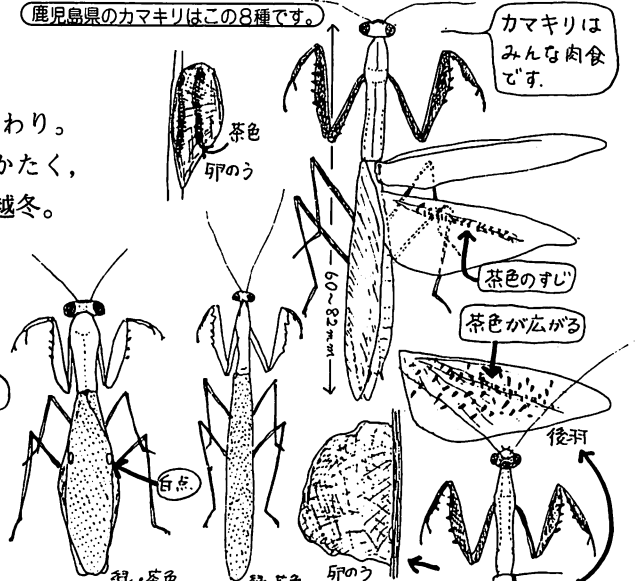
羽は退化
♀のみ
(卵産むまで)



ヒナカマキリ 31mm 森の落葉の上を歩く。
 ヒメカマキリ 31mm 低木上。
 コカマキリ 55mm 草地、畑。
 サツマヒメカマキリ (35mm)

鹿兒島県のカマキリはこの8種です。

カマキリはみんな肉食です。



ハラビロカマキリ 60mm 人里の低木上にも多い。
 ウスバカマキリ 64mm 草比にすくなくない？
 オオカマキリ 82mm 人里や山地の低木上に多い。

158 エダナナフシ (ナナフシ科)

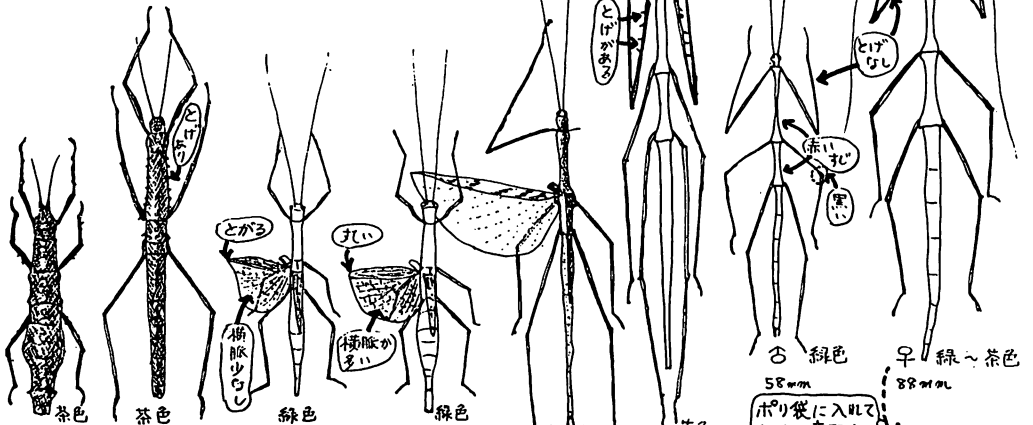
時期 6~11月 卵越冬

場所 森や林の樹上、低木上に多い。

解説 幼虫はノイバラ、ウメ、サクラなどの葉を食べる。

似た虫

鹿兒島県のカマキリはこの7種です。



コバナナフシ (本長) 43mm 佐多岬以南にいる。
 トゲバナナフシ 59mm 秋に山道の幹や低木に3。
 ヤスマツトビバナナフシ 40mm フリ、フヌギの葉を食べ。
 トビバナフシ 40mm シイの葉を好んで食べる。
 タイワントビバナフシ 65mm ナシ、インゲン、クスの葉を食べ。
 ナナフシモドキ (ナナフシ) 85mm 森林に多い。早だけいる。
 58mm 88mm 緑色 緑~茶色
 アンテナは長い
 とげなし
 赤い丸
 黒い
 ホリ袋に入れておくに産卵する
 葉の実のよう卵

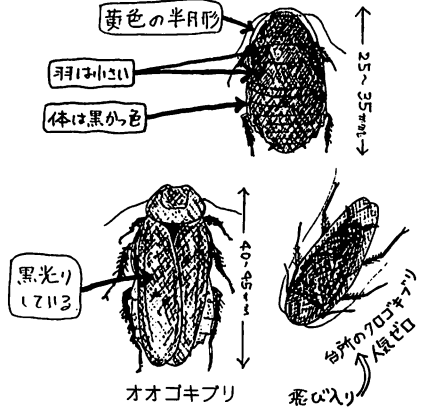
157 サツマゴキブリ (マダラゴキブリ科)

時期 1年中見られる。

場所 森林やその周辺の倒木、朽木の樹皮の下。南方系で南九州、四国足摺岬以南に分布する。家屋内には入らない。

解説 “サツマ”の名がついているが、本土の海岸ぞいの樹林だけに住むのか？探してほしい。卵胎生で、卵塊の先は一時腹端からあらわれるが、やがて母体の中に収まり、ふ化した幼虫は母体から出る。幼虫は水泳が好き。美しく(?)飼いやすい虫。好物の餌は？

似た虫 オオゴキブリ：朽ち木の中に潜入している。



159 クツワムシ (キリギリス科)

時期 8~10月 卵越冬。

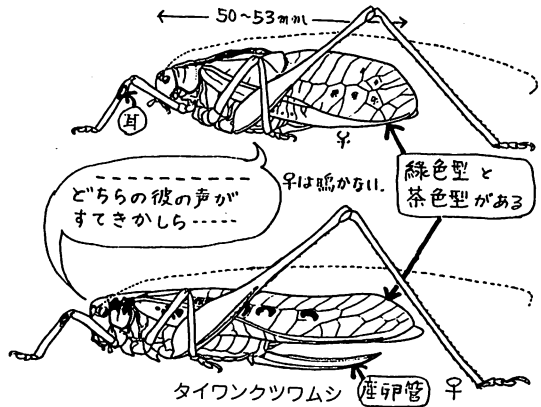
場所 堤防や林縁のやぶにいる。

解説 夕方から夜に鳴く。

ガチャ、ガチャ、ガチャ……
カシャ、カシャ、カシャ……

〈調べてみよう〉どちらが多いか？ 声の分布図を作ってみよう。

カチャ、カチャ、カチャ……
ギョルルルル……



似た虫 タイワンクツワムシ：♂

8~11月、成虫越冬。暖かい夜は正月にも鳴く。

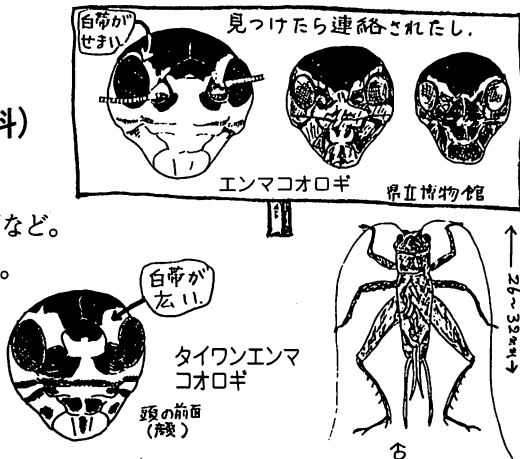
160 エンマコオロギ (コオロギ科)

時期 年1回8~11月。卵越冬

場所 いも畑の中や、まわりの枯れ草の下など。

解説 「コロコロ……リー」と鳴く。

似た虫 タイワンエンマコオロギ：「リー、リー」または「リリリリッ、リリリリッ」と鳴く。幼虫越冬。南方系の種。



(159,160の図は 日浦勇, 1978による)

161 ショウリョウバッタ (バッタ科)

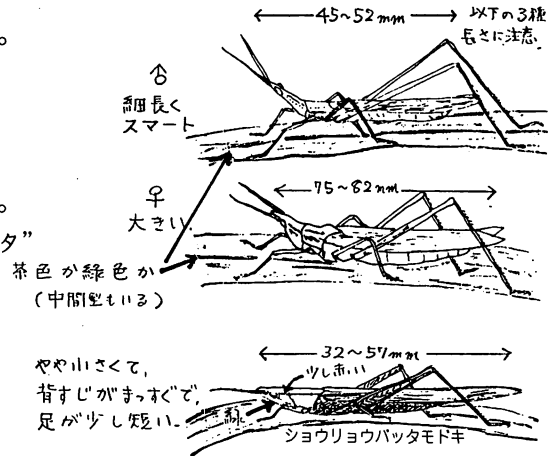
時期 成虫は年1回, 7~10月に見られる。

場所 川の堤防, 路傍の草地, 畑のまわりなど, やや乾燥した草地。

解説 ♂は飛ぶ時に, 前羽と後羽を打ち合わせて“キチ, キチ, キチ……”と音を出す。

♀は長くて太い大きなバッタ。“精霊バッタ”の名はどこから?

似た虫 ショウリョウバッタモドキ: やや湿った草帯に多い。発音はしない。



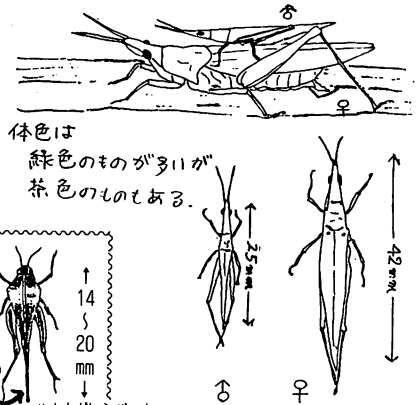
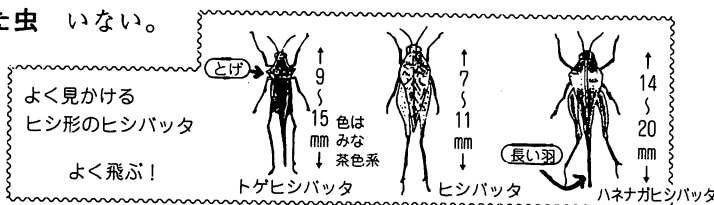
162 オンブバッタ (バッタ科)

時期 6~11月

場所 畑や土手, 家のまわりの草地。

解説 ♀にくらべて♂は小さい。運動は不活発で, ♂が♀におんぶされるように乗っているのを見る。野菜やサツマイモの葉なども食べる。

似た虫 いない。



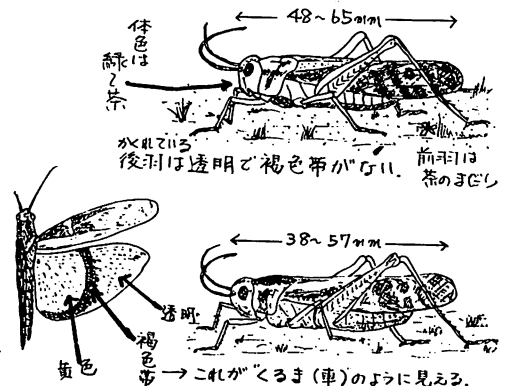
163 トノサマバッタ (バッタ科)

時期 一般に6~11月に成虫が見られるが, 暖地では冬を越している成虫もある。春にも探してみよう。大部分は卵越冬?

場所 草地, 荒れ地にはたいてい住んでいる。海岸近くから耕作地, 山地まで, イネ科の草地に見られる。

解説 敏感でよく飛ぶ。♂も♀も, 前羽と後足をすりあわせて“シュル, シュル”と低い音を出す。1986年馬毛島で大発生した。

似た虫 クルマバッタ: 草地に住む。



164 ツチイナゴ (バッタ科)

時期 9～10月に羽化して、成虫で越冬、翌年の春をすごして7月までいる。

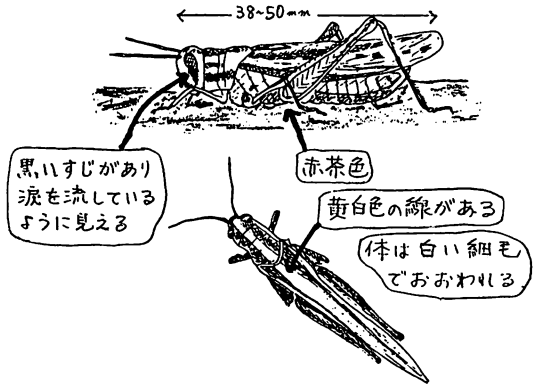
場所 畑のまわりの草地や人里の草地。

似た虫 トノサマバッタ、イナゴ類

ぼくはケラ、300種に入れなくて残念！

← 30～35mm →

土にトンネルを掘ってすむ。「ボー」と低い声で続けて鳴く。

165 ハネナガイナゴ (バッタ科)

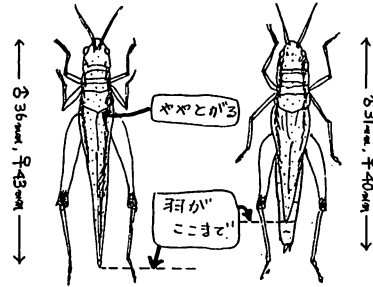
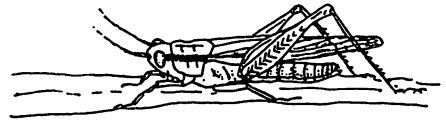
時期 8～11月、卵越冬。

場所 水田、畑地、低地や平地のやや湿った草原。

解説 あぜ道や畑のまわりを歩くと、勢い良く飛んで逃げる。イネやススキなどの葉にとまったときは、すぐ葉のうしろにかくれる。

似た虫 コバネイナゴ：昭和30年代ごろまでは水田に多かったと言われているが、現在は、紫尾山、栗野岳、千貫平など山地帯でしか見つからない。はたして平地の水田にはいないのか？

昔食べていたのはこのイナゴ。ハネナガイナゴとは羽の長さで区別するが、区別できない場合もあり、交尾器などの比較も必要である。



ハネナガイナゴ コバネイナゴ

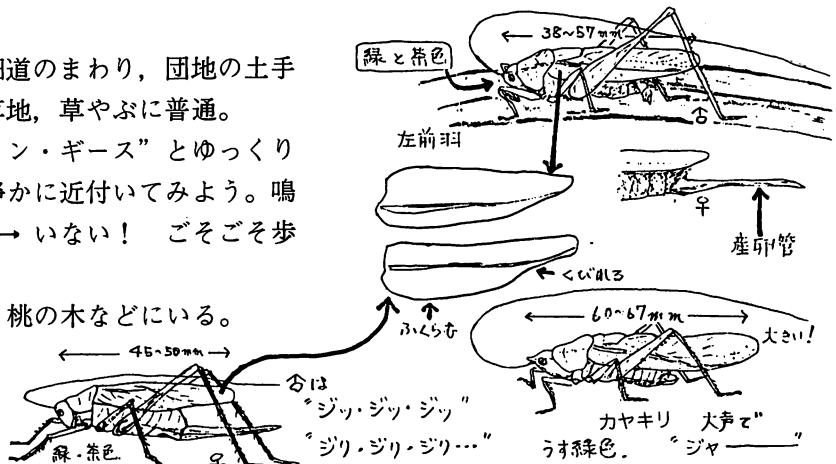
166 キリギリス (キリギリス科)

時期 6～9月

場所 川の堤防、畑道のまわり、団地の土手など、日当りのよい草地、草やぶに普通。

解説 昼間に“チョン・ギース”とゆっくり鳴く。耳をすませて静かに近づいてみよう。鳴きやむ → かけよる → いない！ ごそごそ歩いて逃げるので～す。

似た虫 ヤブキリ：桃の木などにいる。



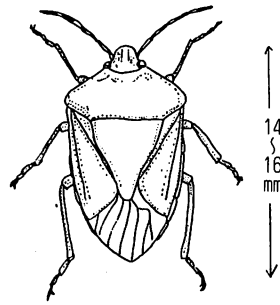
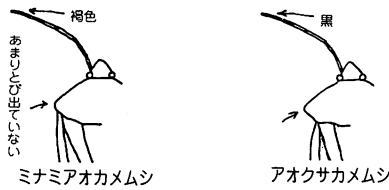
167 アオクサカメムシ (カメムシ科)

時期 夏～秋に多い。

場所 水田や畑の周辺、休耕田、草地。

解説 最も普通な雑食性のカメムシで各種農作物を食う害虫。体色は緑色が基本型でほかに黄色型、黄色に9個の緑の紋がついた型がいる。

似た虫 ミナミアオカメムシ：イネの害虫。



14
16 mm



カメムシの「おし」

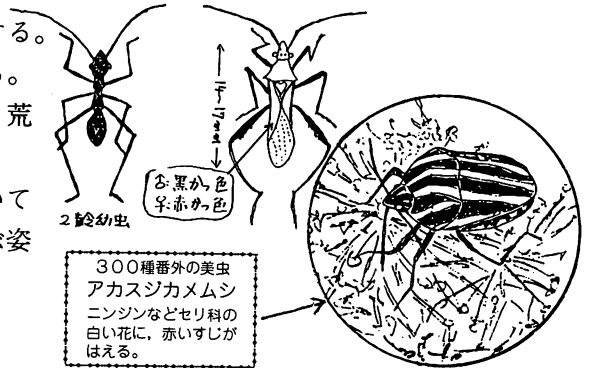
168 ホソヘリカメムシ (ヘリカメムシ科)

時期 夏～秋に多い。年2～3回発生する。

場所 アズキ、ササゲ畑にたくさんいる。マメ科食物、イネ科植物の多い畑、草地、荒地。

解説 とくどきイネやダイズなどについている。幼虫はアリに似ている。成虫は飛ぶ姿がハチに似ている。

似た虫 いない。



変黒か色
赤赤か色

300種番外の害虫
アカスジカメムシ
ニンジンなどセリ科の
白い花に、赤いすじが
はえる。

169 アメンボ (アメンボ科)

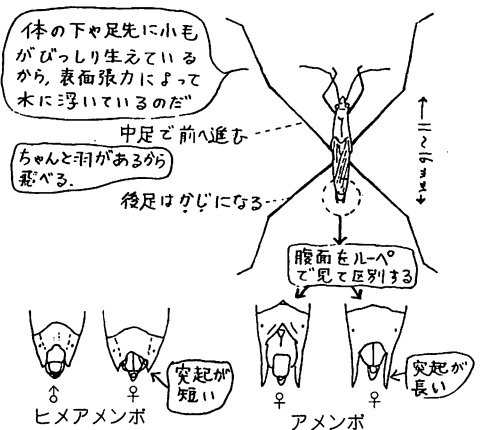
時期 成虫で冬を越し、4月頃から水辺にあらわれて、10月頃まで見られるが、冬はどこにしているのか不明。

場所 流水(川)でも静水(池、水田)でも住んでいる。

解説 水面に浮かんでいる小虫、魚の死体など動物の汁を吸う。英名はpond skater

(水たまりのスケーター)

似た虫 ヒメアメンボ：水田や水たまりに多い。オオアメンボ：木かげのある水の澄んだ池、小川にいる。中足で8cmはあるから、すごい大きさ。



体の下や足先に小毛がびっしり生えているから、表面張力によって水に浮いているのだ

中足で前へ進む
ちゃんと呼があるから飛べる。
後足はガジになる

腹面をルーペで見て区別する



↑
ヒメアメンボ

↑
アメンボ

170 アブラゼミ (セミ科)

時期 7月上旬～9月下旬

初鳴：1965年7月7日(加世田市) — 7月10日前後に
1974年7月12日(鹿児島市) — 気をつけよう。

終鳴：1965年9月22日(加世田市) — 曆に○をつけて
1982年9月14日(鹿児島市) — メモしよう。

場所 古い木の多い住宅地、公園、神社など。

解説 サクラ、ナシなど好きな木がある。

幼虫は2～5年地中生活をする。

似た虫 いない。

〔オ名〕

アブラゼミ
アカゼミ



♂

♀

-----!
セミの子はみんな顔がらり。

171 クマゼミ (セミ科)

時期 7月中旬～9月下旬

初鳴：1967年7月21日 終鳴：1965年9月24日

1968年7月18日 1968年9月21日

1969年7月13日 1970年9月29日

1970年7月8日 1979年9月24日

1971年7月3日

1973年6月28日

1974年7月18日

1978年7月20日

1981年7月20日

1990年7月13日

〔オ名〕

フマゼミ
ワッシワッシ
ジャンジャンゼミ



シャア、シャア……
ワッシ、ワッシ……
セン、セン、セン

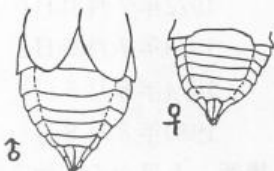
♂♀の区別

腹面を見ると……

弁と腹端の形ですぐ分かる。

♂の腹が大きいのは……

ドラムの共鳴室があるから。



場所 センダン、カキ、サクラなどに多い。

海岸近くの低地のセミ。標高何mまでいるか？

似た虫 ミンミンゼミ：鳴き声も姿もまるでちがうが……。

基音はよく似ているらしい。(八重山諸島のヤエヤマクマゼミはミーン、ミーンと鳴く)。ミンミンゼミはクマゼミに鳴き負けて、山地に退却したという説がある。8～9月上旬。

ミーン、ミン、ミン、ミンミー

はじめと
終りセのぼす。



172 ニイニイゼミ (セミ科)

時期 6月下旬～9月中旬

初鳴：1972年6月22日(鹿児島市)

1974年6月22日(鹿児島市)

終鳴：1981年9月15日(入来町)

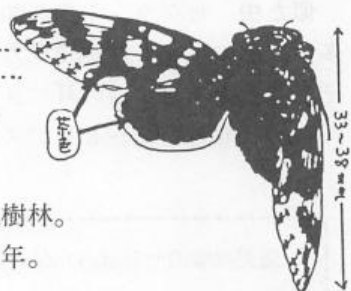
チイ…… ズー……
ニイ…… ズー……

長寿なのか、だらだら
羽化するのか？

場所 庭前のビワ、ウメ、モモ、サクラなど。低地～山地樹林。

解説 一匹で鳴くより、合唱することが多い。幼虫期は4年。

似た虫 いない。



173 ハルゼミ (セミ科)

時期 4月中旬～6月

初鳴：1959年4月12日(指宿市)

1977年4月10日(指宿市)

終鳴：？年6月X日→調べてみよう。

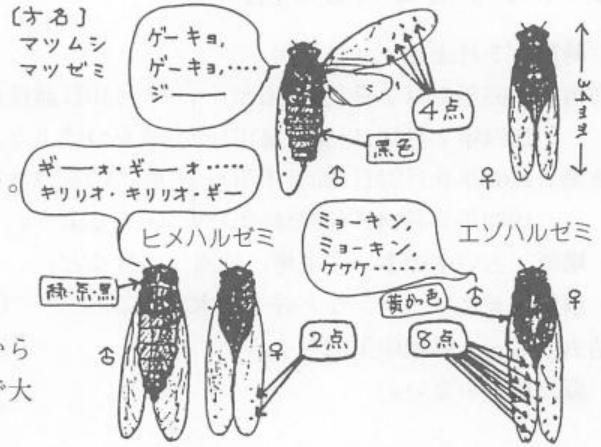
場所 各地のマツ林。

解説 一番早く鳴き出すセミ。

マツ林の農業散布にも負けず？

似た虫 ヒメハルゼミ：6月下旬から7月中旬に、古いシイ・カシの樹林で大合唱をしている。夏休みにはいない。

エゾハルゼミ：5月下旬～6月下旬。紫尾山、霧島の高地。



174 ツクツクボウシ (セミ科)

時期 7月下旬～10月

初鳴：1967年7月24日(鹿児島市) 終鳴：1965年11月8日(鹿児島市)

1972年7月31日(ク)

1968年10月12日(ク)

1973年7月25日(ク)

1974年8月5日(ク)

1980年8月8日(ク)

場所 人里から山地まで、各地にいる。

サクラ、アカメガシワなど好きな木があるらしい。

“ツクツクホーシ” とくり返す回数？

12回, 17回, 19回, 20回, 21回, 29回 (最高!)

1匹 1匹 1匹 1匹 2匹 1匹



あなたの近くのセミは何回が最高？ 地域によってちがうかもしれない。

似た虫 ヒグラシ：標高200～300m以上の樹林に多い。山のキャンプ地で夕方鳴く。今にも降り出しそうな山道を急ぐ君の耳に聞こえるか？ “ケケケケ……” 6月中旬～8月。スギ、ヒノキ林。



鹿児島県のセミはみんなで14種です。県本土にはここに紹介した9種のほか、佐多町にいるクロイツクツク(8月中旬～10月中旬)を入れて10種になります。

175 アオバハゴロモ (アオバハゴロモ科)

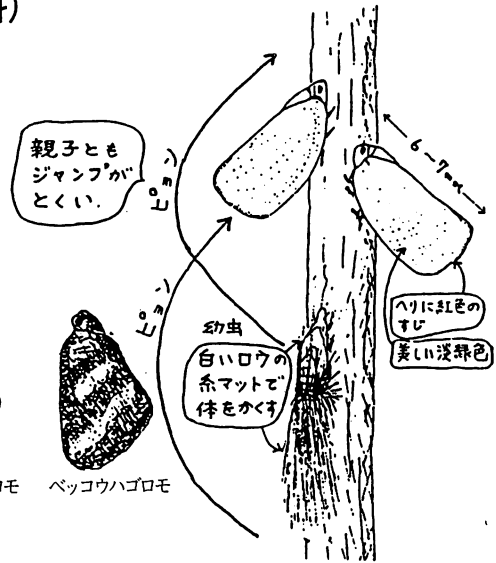
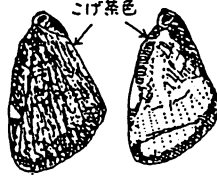
時期 7月～9月。年1回発生。卵で越冬。

場所 路傍や人家周辺のやぶ、生け垣、林縁、伐採地など。

解説 6月～7月、白い粉をかぶった幼虫が群れをなして低木の若い茎から吸汁する。いろいろな広葉樹につく。

成虫は枝に群生して植物のつぼみのように見せかけ、外敵の目を逃れるというが……？

似た虫 ハゴロモ科の → アミガサハゴロモ スケノハゴロモ ベッコウハゴロモ



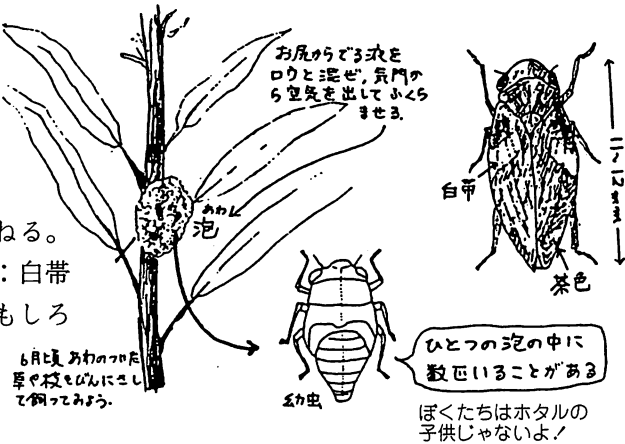
176 シロオビアワフキ (アワフキ科)

時期 春～初夏はあわ吹き生活の幼虫。7月～9月に成虫がいる。

場所 ヤナギ、バラ、サクラ、イチゴ、クワ、ブドウなどの若い茎から汁を吸う。ヨモギなど草にもついている。

解説 成虫はピョン、ピョンはねる。

似た虫 ヒメシロオビアワフキ：白帯が細い。いろいろな種類がいておもしろい。セミの親せき。



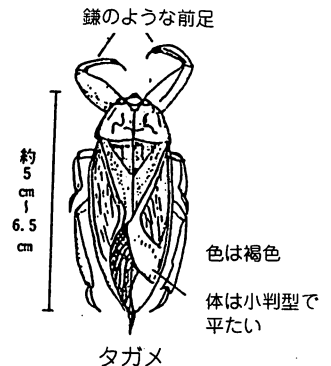
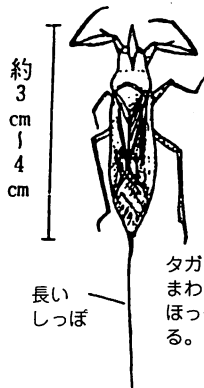
177 タイコウチ (タイコウチ科)

時期 春～秋に多い。

場所 池沼、水田、小川、用水路。

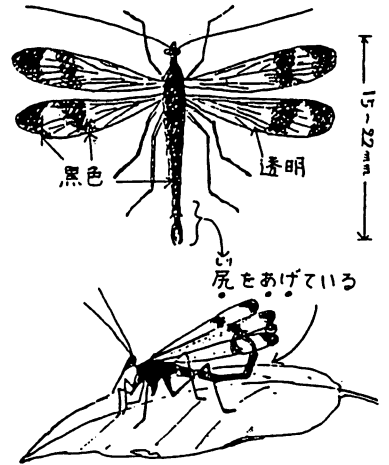
解説 オタマジックシヤメダカ、小ブナなどの子魚を捕らえてその体液を吸う。体と同じくらいの長さの2本の呼吸をするための尾を持っている。

似た虫 タガメ：池沼、小川に住む。8～10月水銀灯に飛んでくる。成虫は秋になると池や川の近くの土手に上がり、枯れ草の下などで越冬する。



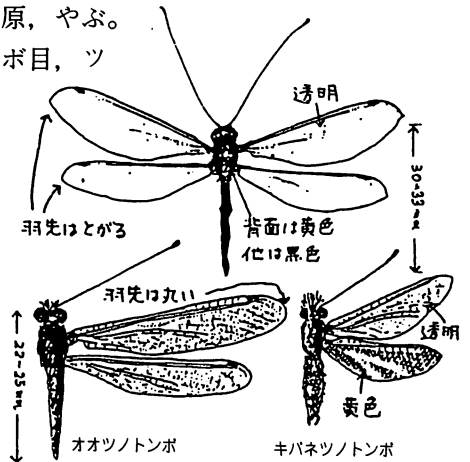
178 ヤマトシリアゲ (シリアゲムシ科)

時期 4月～5月, 7月～8月, 9月～10月(?)
場所 樹林周辺, 林間の山道, やぶなどでよく出会う。
解説 木もれ日の中をピラピラピラ……と飛んで葉上にピョコンと止まる。腹の先をサソリのように曲げているが, 刺さない。口もとがっているが, ストローのように吸うのではなく, 口先で噛んで小動物(虫, カタツムリ, ミミズなど)の死体やキノコなどをたべる。
 羽のようには変異がある。
似た虫 ベッコウシリアゲ: 腹がべっ甲色, 小形。



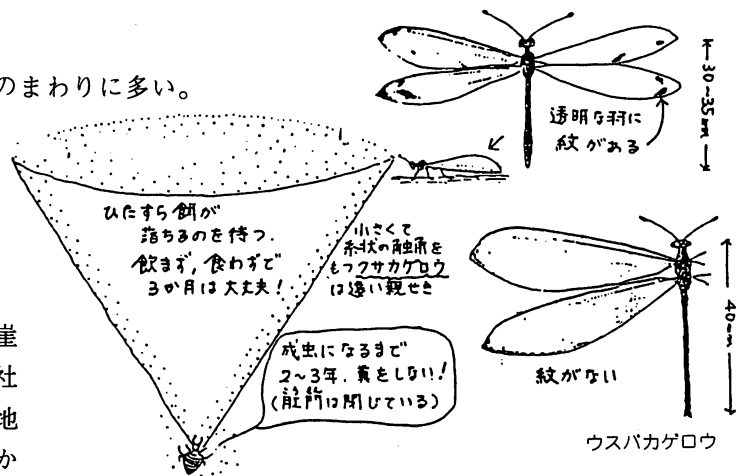
179 ツノトンボ (ツノトンボ科)

時期 5月～9月
場所 池の周辺の草地, ススキなど丈の高い草原, やぶ。
解説 よくトンボと間違われる。トンボはトンボ目, ツノトンボは脈翅目で全く違う仲間。
 幼虫はアリジゴクに似て, 秋の草原でよく見かけるが, 穴は掘らず葉上で小虫を捕食する。
似た虫 キバネツノトンボ: 5月～6月に草原にいる。オオツノトンボ: 霧島地方にいる。



180 ホシウスバカゲロウ (ウスバカゲロウ科)

時期 6～10月
場所 少し山手の森林やそのまわりに多い。
解説 幼虫はアリジゴクで大木の根もと, 崖下などに穴をほる。成虫は夜行性で, ひらひら飛びながら暗やみでカを食べる。寿命は1ヶ月。
似た虫 ウスバカゲロウ: 崖下や根もとのほか, 人家, 神社などの床下に穴を掘る。砂丘地帯にコウスバカゲロウが見つかるか?



181 イチモンジセセリ (セセリチョウ科)

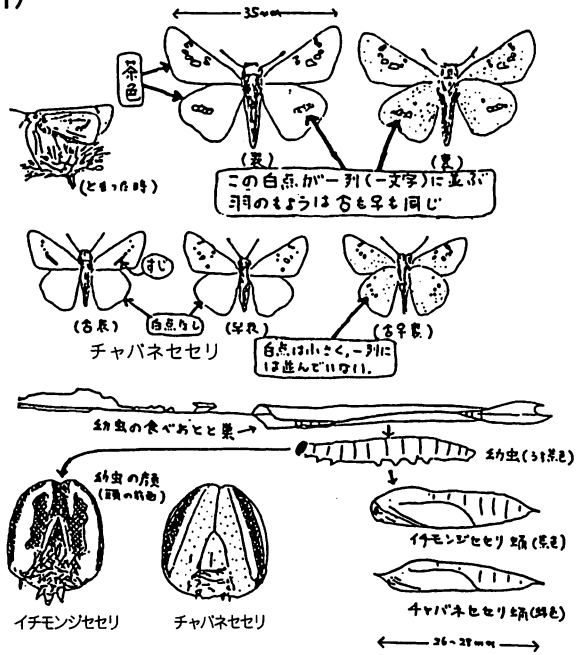
時期 5～11月、とくに8～10月に多い。
幼虫で越冬。

場所 明るい草地や荒れ地、水田、湿地、川の堤防、花壇など。

解説 アザミ、フヨウ、カラスザンショウなどいろいろな花にくる。9月頃は教室などに飛び込み、ガラス窓によくとまっている。幼虫は7～8月、イネの葉を食べて害をすることがある。

秋には、チガヤ、ススキなどの葉を筒状に巻いて、巣を作った幼虫が多い。

似た虫 チャバネセセリ (多い)、オオチャバネセセリ (少ない)、ガとまちがわれるチョウ。



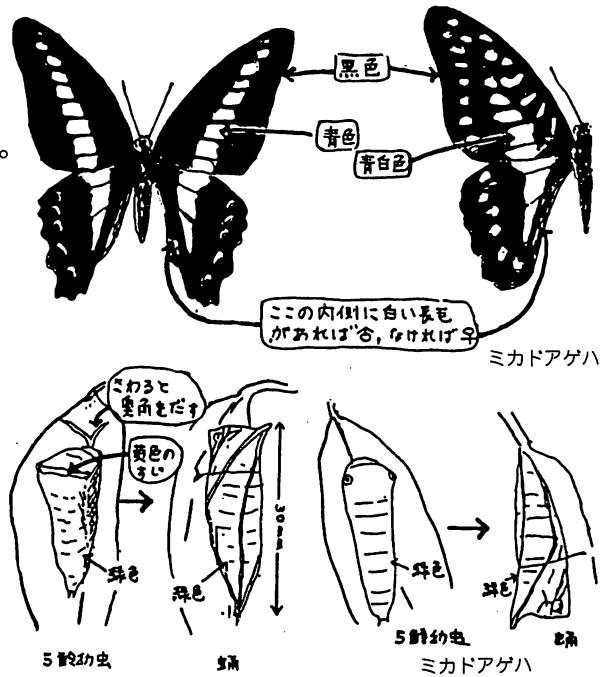
182 アオスジアゲハ (アゲハチョウ科)

時期 4～5月中旬、6～10月、年に3～4回発生。蛹で越冬。

場所 クスやタブの多い林縁や人家のまわり、クスの並木、鹿児島市街地にも多い。

解説 春はネギ、トベラ、ミカンなどの花、夏はヤブガラシ、ノブドウ、ソクズなどの花に集まる。湿った地面に吸水に依る。飛び方は速い。卵はクスやタブなどの若葉に産みつけ、幼虫も若葉を食べる。



似た虫 ミカドアゲハ：4月下旬～5月上旬にやや多い。6～10月はまれ。オガタマノキ (野生)、タイサンボク (植栽) に産卵する。トウオガタマ (植栽) は好まない。



183 アゲハチョウ

184 キアゲハ

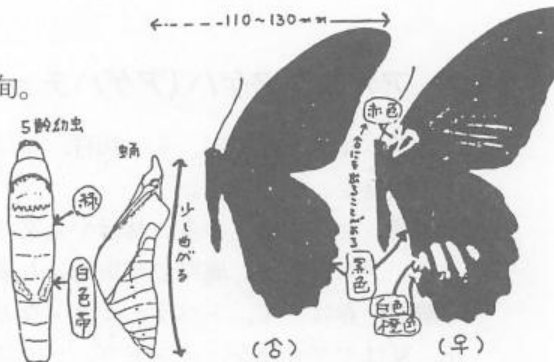
(アゲハチョウ科)

	アゲハチョウ	キアゲハ
時期	3月中旬～11月上旬	3月下旬～10月
場所	ミカン類の多い人家のまわり、サンショウの多い伐林地。	セリ類の多い浜辺、湿った草地、山や丘の頂上付近。
解説	花壇のいろいろな花にくる。湿地で吸水する。ミカン類、サンショウ類に産卵。	草原の草花を好む。山頂にオスが集まってメスを待つ。ニンジン、パセリ、セリに産卵。
	 5齢幼虫 緑色(体長45mm)	 5齢幼虫 黒と黄緑(50mm)
似た虫	キアゲハ	アゲハチョウ



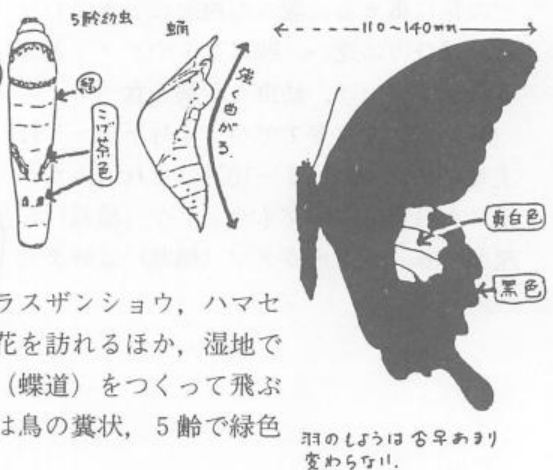
185 ナガサキアゲハ (アゲハチョウ科)

時期 4月上旬～5月下旬, 6月中旬～10月下旬。
 場所 ミカン類の多い人家のまわり。
 解説 食樹がミカン類, カラタチのような栽培種に限られるので, 人家から離れた山地には少ない。花壇の花のほか, カラスウリ, クサギ, ネムノキなどの花にくる。
 似た虫 黒いアゲハで後羽に尾状突起がないのは本種だけで, 他にいない。



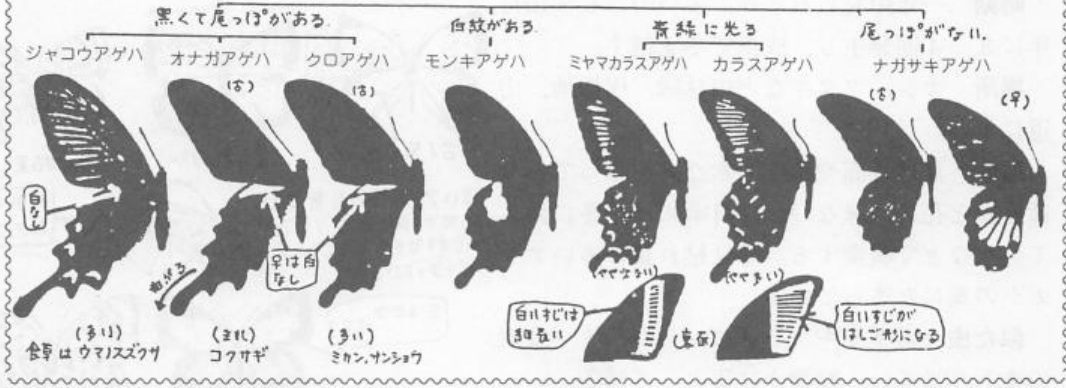
186 モンキアゲハ (アゲハチョウ科)

時期 4月上旬～5月下旬, 6月中旬～10月下旬。年に3回発生。蛹で越冬する。
 場所 カラスザンショウの多い樹林や人家周辺, 樹木の多い川べり。
 解説 栽培ミカンより野生のミカン科(カラスザンショウ, ハマセンダンなど)に好んで産卵する。いろいろな花を訪れるほか, 湿地でよく吸水している。林縁などの一定のコース(蝶道)をつくって飛ぶことが多い。卵は球形で黄色。1～4齢幼虫は鳥の糞状, 5齢で緑色となる。
 似た虫 大きな黄白斑が目立つ黒いアゲハは本種だけで, 他にまぎらわしい種はいない。

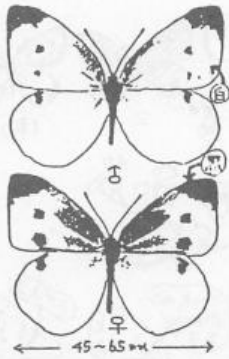


羽の模様は各年とも変わらない。

大型アゲハチョウの見分け方



187 モンシロチョウ (シロチョウ科)



時期 3月～11月、まれに1, 2, 12月にもみる。(暖地では2月20日すぎが初見)

場所 畑や田んぼ、人家周辺の明るいところ。

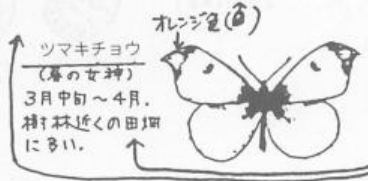
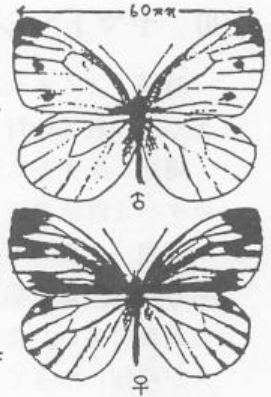
解説 キャベツ、ダイコンなどのアブラナ科野菜、イヌガラシなどの野草、花壇の酔蝶花にもつく。

スジグロシロチョウ

3月～11月。ほかの時期には見ない。(初見は3月上旬)

樹木の多い畑や人家周辺、山道、木かげの多いところ。

野生のアブラナ科を食草とするが、人家や樹林近くではキャベツにもつく。



仲が危くて各地で勢力を失っている。どちらが逆転する?
 (体に灰色の毛) - 青虫の区別点。(体に黒毛(黒点)あり) 似た虫
 白いチョウはこの4種 →



188 キチョウ (シロチョウ科) ←黄色いチョウはこの3種 →

時期	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

秋に羽化した成虫で冬を越す。年4回くり返すの発生をくり返す。



場所 山道、田畑のまわり、川の堤防、人家周辺などの草地。

解説 ネムノキ、ハギ類などマメ科植物が食草。

似た虫 ツマグロキチョウ →

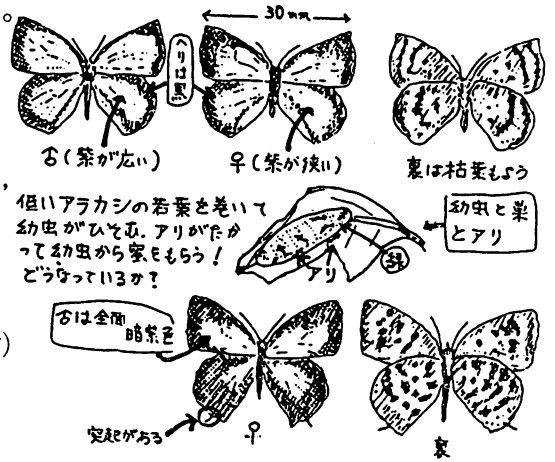
189 ムラサキシジミ (シジミチョウ科)

時期 一年中見られるが、多いのは6～10月。
年に3～4回発生し、成虫で冬を越す。

場所 カシ、クヌギなどの林縁、伐採地、山道に多い。

解説 夏は地面や葉上の水などを吸っており、ほとんど花には来ない。10月頃には越冬に備えてソバなどで吸蜜する。冬は枯れ葉の多いアラカシの葉にとまっている。

似た虫 ムラサキツバメ：マテバシイ（食樹）のまわりに多い。緑葉上に集まって越冬。



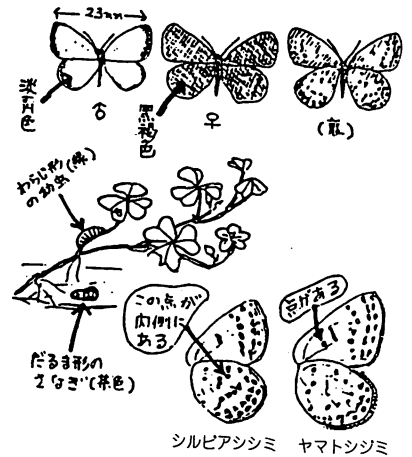
190 ヤマトシジミ (シジミチョウ科)

時期 ごくまれに1～2月にも見られるが3～11月に多く、少数は12月までいる。

場所 庭先から道ばた、荒れ地、田畑のまわりなど、カタバミ群落の近くにごく普通。

解説 いろいろな草花の蜜を吸い、明るい草地をちらちら飛び、よく葉上にとまる。卵や幼虫は食草カタバミの葉裏に多い。食草を鉢植えにして窓の外に置くと、メスが産卵にやってくる。

似た虫 シルビアシジミ：ミヤコグサ、ヤハズソウの群落に時々見かける。発見したら博物館におしえて！



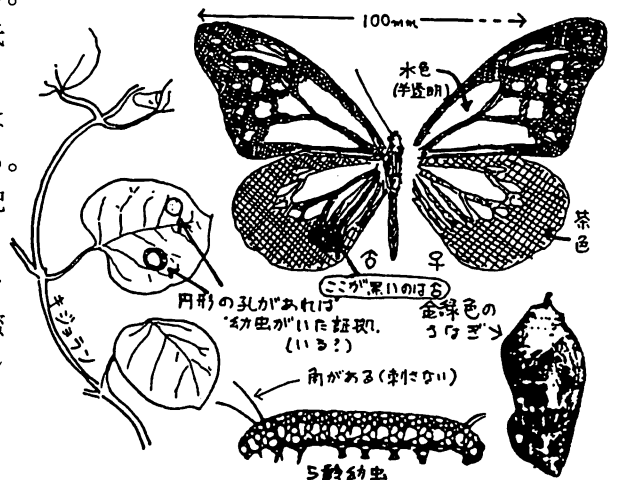
191 アサギマダラ (マダラチョウ科)

時期 4～5月は低地に少数見かける。6～9月は高地に多く、10～11月には低地に多い。

場所 夏は涼しい山の高地、春、秋は暖かい低地へ移動している可能性がある。南や北への移動もある。はねに番号を記入して移動を調査中。

解説 春はミカン、夏、秋はオカトラノオ、アザミ、ヒヨドリバナなどで吸蜜する。食草は、ガガイモ科のキジョランなど。

似た虫 タイワンアサギマダラ：ごくまれに飛来する迷チョウ。



192 ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)

時期 3月～11月ならいつでも見つかる。

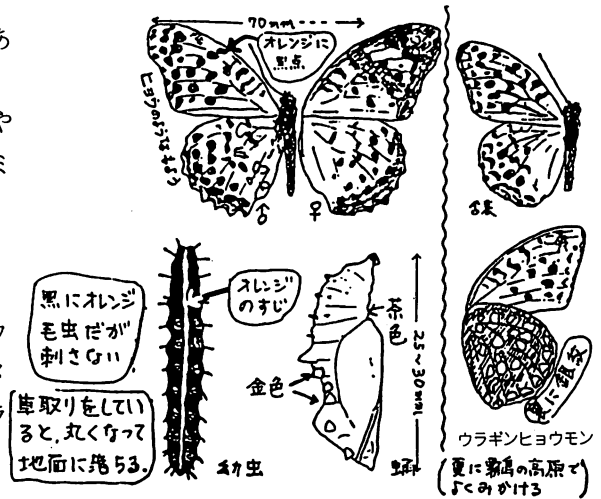
場所 家庭や学校の花壇、スミレのあるあぜ道や山道、小高い丘の頂上など。

解説 5月頃パンジーをさがすと、幼虫や蛹が多い。秋の終わり頃は、日だまりのスミレを求めてさまよっている幼虫に出会う。

似た虫 多いが、みな産地に限られる。

見つかったらエライ！

ウラギンスジヒョウモン・オオウラギンスジヒョウモン・ミドリヒョウモン・クモガタヒョウモン・メスグロヒョウモン・ウラギンヒョウモン・オオウラギンヒョウモン



193 アカタテハ (タテハチョウ科)

時期 春と秋に多く、夏にはやや少ない。

成虫も元気に冬を越す。

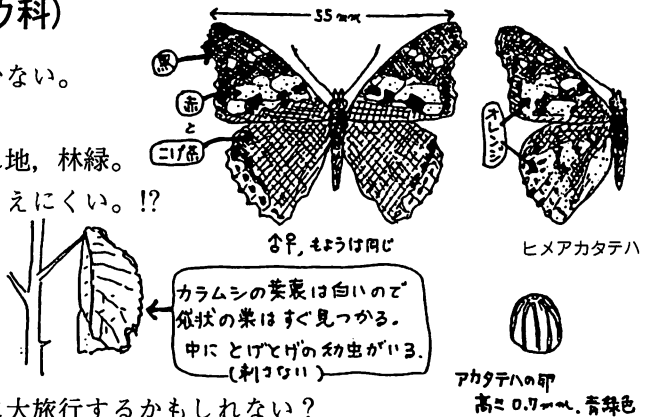
場所 人家のまわり、川べり、荒地、林縁。

解説 成虫は飛び方が速くてつかまえない。!?

カラムシ、イラクサで幼虫を探して飼ってみよう。花より樹液の方が好きらしい。

似た虫 ヒメアカタテハ：ヨモギ

に巣をつくるがやや少ない。南や北に大旅行するかもしれない？



194 イシガケチョウ (タテハチョウ科)

時期 3～4月は冬を越したメスが、新芽のほころびたイヌビワに産卵にやってくる。

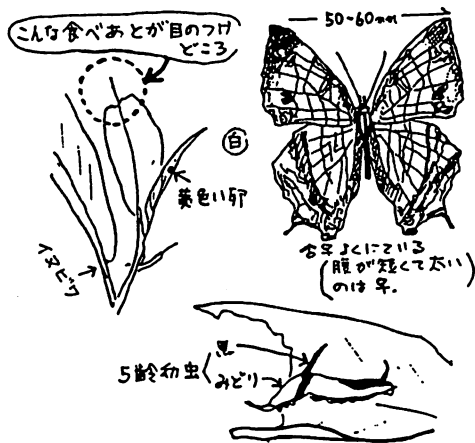
5～10月に3～5回の発生。

場所 イヌビワの生える山道や小川ぞい。

解説 花の蜜も好きだが、山道の湿地でよく吸水している。よく見るとそこに古いカニやミミズの死がいがあったり……しないかな？

卵や幼虫は見つけやすい。イヌビワをびんにさして飼ってみよう。枝を20cmくらいに切って(水切りがよい)古い葉を除いておけば水上げがよい。若葉しか食べられないらしい。

似た虫 いない。

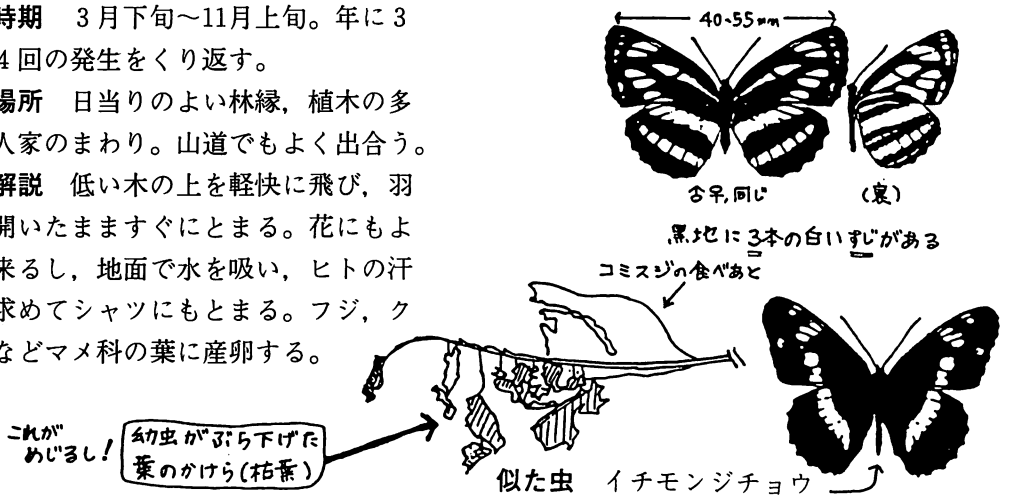


195 コミスジ (タテハチョウ科)

時期 3月下旬～11月上旬。年に3～4回の発生をくり返す。

場所 日当りのよい林縁、植木の多い人家のまわり。山道でもよく出会う。

解説 低い木の上を軽快に飛び、羽を開いたまますぐにとまる。花にもよく来るし、地面で水を吸い、ヒトの汗を求めてシャツにもとまる。フジ、クズなどマメ科の葉に産卵する。



196 ヒメウラナミジャノメ (ジャノメチョウ科)

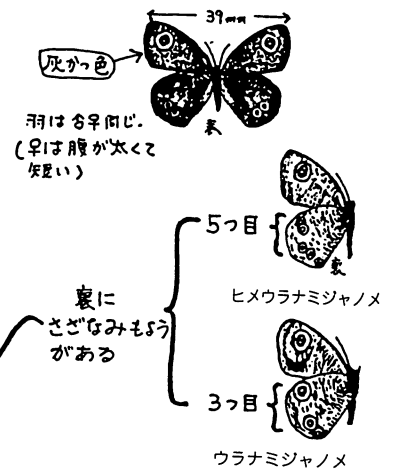
時期 4～5月中旬, 6月下旬～10月中旬。一年に3～4回の発生。幼虫で越冬。

場所 明るい草地や荒地, 人家のまわり, 林縁。花壇にもくる。

解説 キンボウゲ, マルバウツギ, マーガレットなどの花を好む。低く飛んで, よくとまる。

幼虫はチガヤなどイネ科雑草を食べる。ちょっと探しにくいので, メスをポリ袋に入れて産卵させよう。

似た虫 ウラナミジャノメ: 6月と9月に見られる。



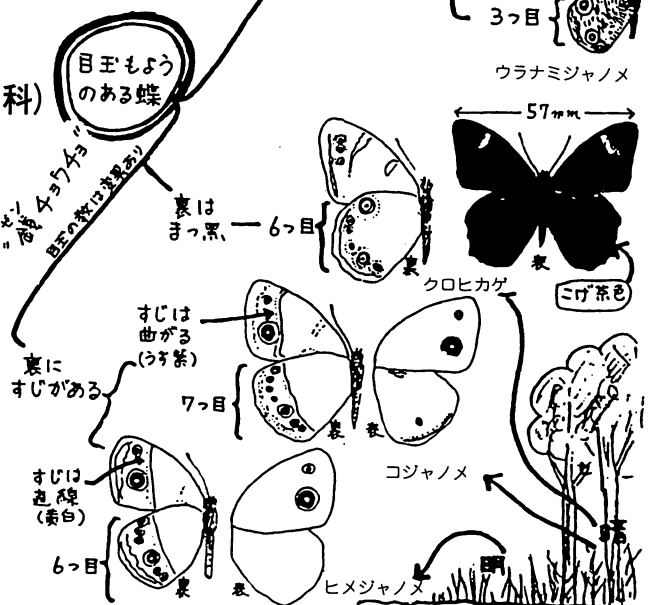
197 クロヒカゲ (ジャノメチョウ科)

時期 4～11月。年に2～4回発生。

場所 ササの多い山のキャンプ場, タケ類の生えた林間, 林縁, 人家のまわり。

解説 花にはあまり来ないが, 樹液や腐った果物にはよく集まる。低いタケ(ゴキダケ, メダケ)に産卵。よく人家に飛び込む。活発に飛ぶ。

似た虫 コジャノメ: 林の中にいる。ヒメジャノメ: 林の外にいる。



198 クロコノマチョウ (ジャノメチョウ科)

時期 成虫で冬を越すので、ほぼ一年中見ることができるが、7~10月に多い。

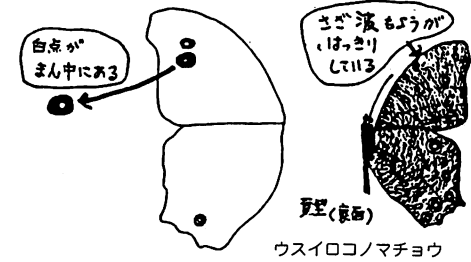
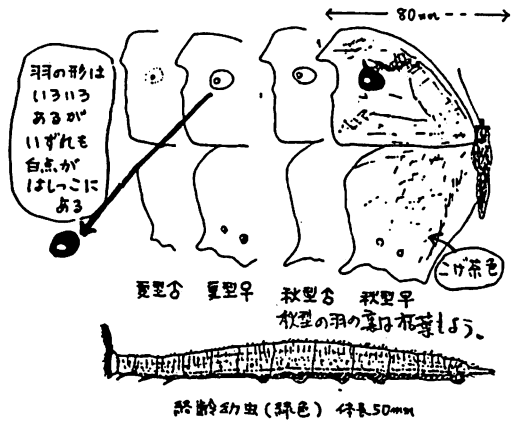
7~9月は夏型の蝶が、10月からは秋型の蝶が出る。秋型が越冬し、翌春に産卵する。

場所 夏はススキの生えた荒れた林道、お寺や神社の森のまわり、樹林近くの田や畑の付近。ススキの草原ではなく、少し日かげのススキがあるところ。水辺のジュズダマの多いところ。

秋~冬は森林の中を歩くとよく飛び立つ。

解説 早朝と夕方にフワリ、フワリと飛び、樹液や腐果で吸汁する。秋は落ちた柿の実によく来る。ススキやジュズダマに産卵。

似た虫 ウスイロコノマチョウ：冬は死んでしまうが、毎年6~7月頃、南から飛来し、その子孫が8~10月に多い。街灯に来る。



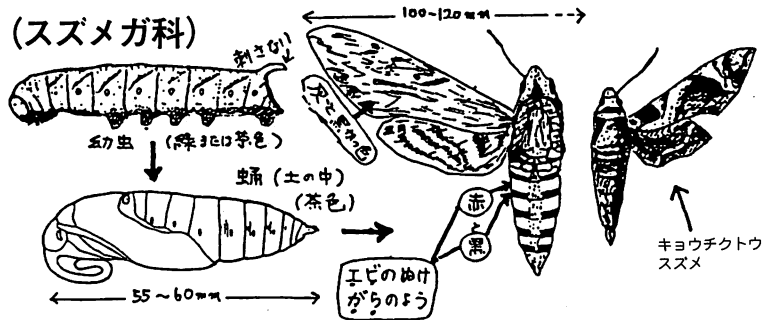
199 エビガラスズメ (スズメガ科)

時期 5~10月。
年2回発生。

場所 畑や人家のまわり。人里昆虫。

解説 アサガオ、ヒルガオ、ヨルガオ、サツマイモ、アズキなどにつくイモムシ。

似た虫 スズメガ科は多いが、大きいので図鑑で分かる。



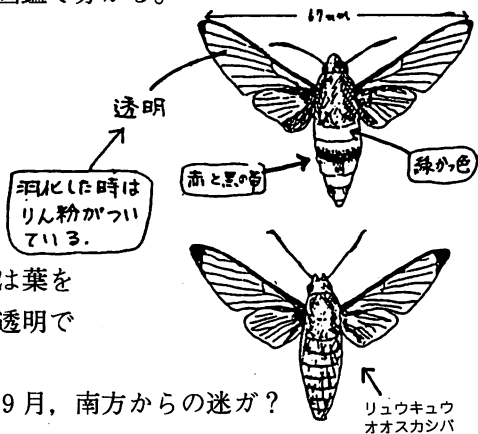
200 オオスカシバ (スズメガ科)

時期 6~9月。年2回発生。蛹で越冬。

場所 低山地の川べり、住宅地に多い。

解説 クチナシに産卵、幼虫(イモムシ)は葉を食べて木を丸坊主にする。昼間に飛び、羽が透明でハチに似ている。

似た虫 リュウキュウオオスカシバ：8~9月、南方からの迷ガ?



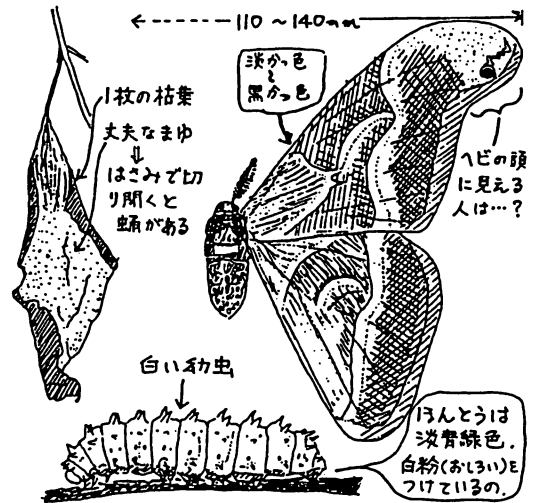
201 シンジュサン (ヤママユガ科)

時期 5～6月, 8～9月の年2回発生。大きな幼虫は7～8月, 9～10月に庭木で見られる。蛹で越冬。

場所 人家周辺～低山地, 公園など。

解説 種名は幼虫がシンジュの木を食べるカイコ (蚕) の意。クロガネモチ, クスノキ, ナンキンハゼ, ハマセンダンなど多くの樹木につく。大きな羽でフワリ, フワリと飛ぶが, 口は退化していて餌はとらない。寿命は?

似た虫 ヨナグニサン: 沖縄県にいる。



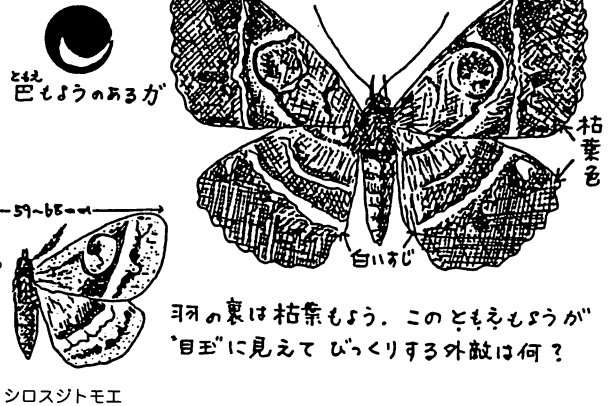
202 オオトモエ (ヤガ科)

時期 5～9月に2回発生する。蛹で越冬。

場所 低山地のうす暗い森林の山道を歩くと, フワ, フワ飛び出してびっくりさせられる。

解説 幼虫はサルトリイバラを食べる。

似た虫 シロスジトモエ: ぐっと小さいのですぐ分かる。



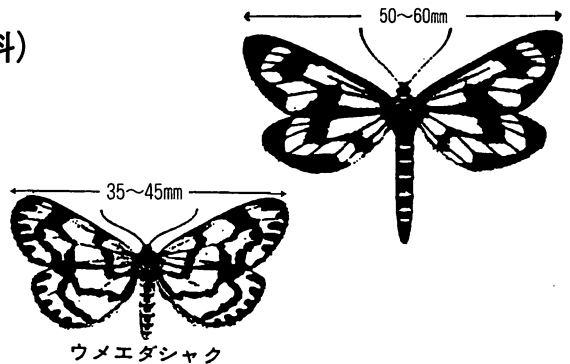
203 トンボエダシャク (シャクガ科)

時期 6月

場所 林縁, 人家周辺。

解説 昼間, ネズミモチの花に多い。林のまわりをひらひらと飛びまわる。幼虫はツルウメモドキにつく。

似た虫 ウメエダシャク: 成虫は6月～8月に発生。昼間, ゆっくりと飛ぶ。



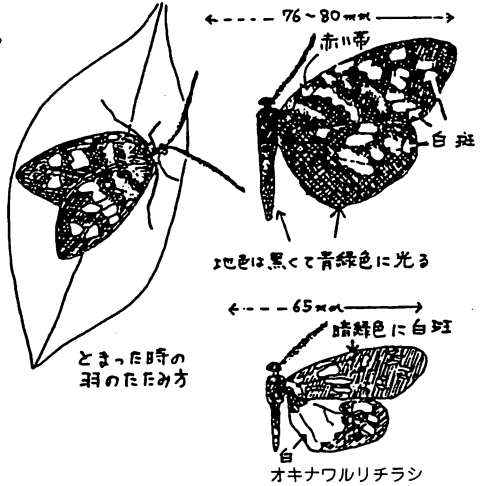
204 サツマニシキ (マダラガ科)

時期 年2回, 7~8月と9~10月に発生。卵または若齢幼虫で越冬。

場所 ヤマモガシのある暖地, 照葉樹林のまわり, 樹林近くのソバの花に来る。

解説 “薩摩錦”の名のようにあでやかで, 昼間にフラフラと舞うように飛ぶ。つかまえると胸から臭い黄色の液をぶくぶくと泡状に出す。これは毒! 死んだふりもうまい。幼虫はヤマモガシなどを食べる。

似た虫 オキナワリチラシ: 8~10月, ヒサカキ(食樹)の花で吸蜜する。



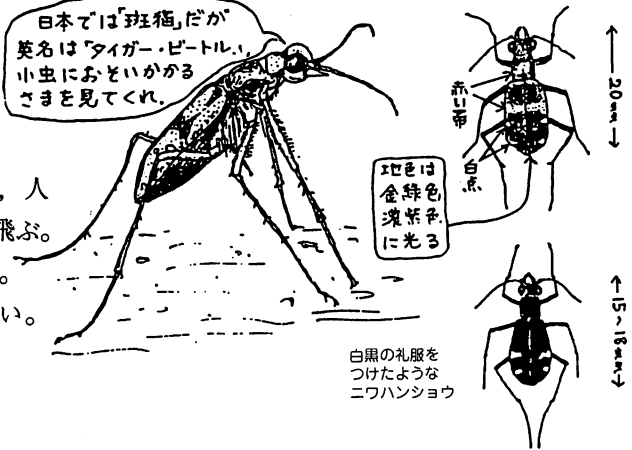
205 ハンミョウ (ハンミョウ科)

時期 4~9月

場所 低地, 山地の少し湿った路上や荒れ地に多い。

解説 地面において, すばしこく走り, 人が近づくと道を先へ先へと案内するように飛ぶ。“みちおしえ”“みちしるべ”の名もある。

似た虫 コニワハンショウ: 山道に多い。このほか白黒色の種類は9種いる。



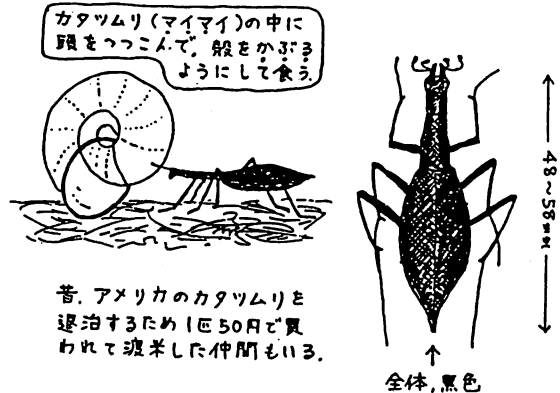
206 マイマイカブリ (オサムシ科)

時期 ほとんど一年中見られる。ただし, 冬は土中や切り株の中にいる。

場所 カタツムリやミミズの多い森の中, 積んである枯れ草の下, 山地のほそ道道路の側溝にも落ちていることがある。

解説 羽は開かないので飛べない。歩行虫のなかま。地表を長い足で歩きまわり, 幼虫や成虫もカタツムリやミミズを食べる。

似た虫 いない。オサムシ類が少し似ている。



208 ノコギリクワガタ (クワガタムシ科)

時期 5月下旬～10月上旬

場所 シイ・カシの樹林, クヌギ林。

解説 樹液を好み, 夜, 灯火にも飛来する。

クワガタムシ類の幼虫は朽木で育つが、成虫は次の2群に大別される。

幹の表面で生活するもの

- 体もつのも平べったくない。
- 歩きまわるために足が長い。
- 目がぼつちりしている。

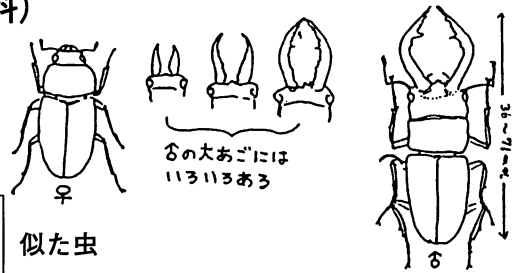
(例) ノコギリクワガタ
ミヤマクワガタ

朽木や樹皮にもぐるもの

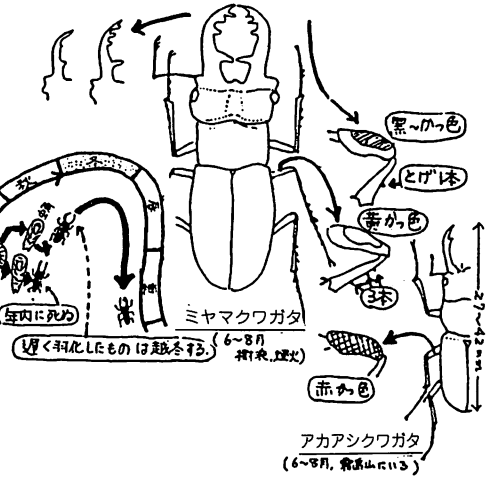
- 体やつのが扁平か円筒形 (円筒形)
- 足は短い。
- 目が“奥目”になる。

(例) ヒラタクワガタ
ネトクワガタ

幼虫の飼い方
朽木やそのくずを植木鉢やプラスチックケースなどに入れて飼育する。
1匹ずつ入れること。



似た虫



209 コクワガタ (クワガタムシ科)

時期 6～8月, 成虫越冬。

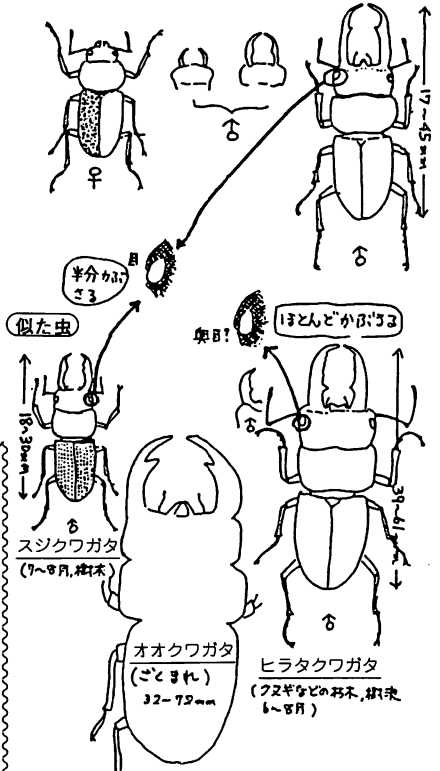
場所 樹液のでる樹木。夜, 近くの灯火に飛来する。

解説 各地に多い。

小さなクワガタムシ

木の洞, 樹液 6～8月, 成虫越冬	シイの朽木 5～8月, 成虫越冬	サクラの朽木 5～9月
 ネトクワガタ	 チビクワガタ	 マメクワガタ
 ♀の大あご	 ♀の大あご	 ♀の大あご

ほかに, マダラクワガタ, オニクワガタ
ルイスツノヒョウタンクワガタ



207 オオミズスマシ (ミズスマシ科)

時期 一年中。冬にも見られる。

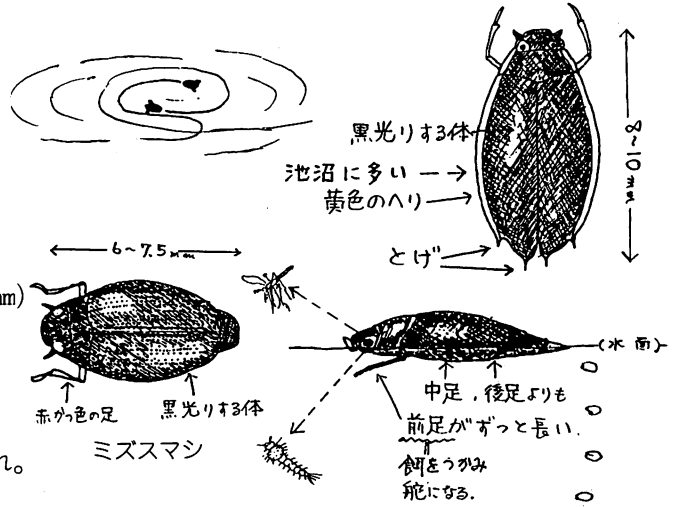
場所 池沼に多い。

解説 水面をくるくる活発に泳ぎまわり、ボウフラや水面に落ちた小虫を食べる。目は空中と水面を同時に見ることができる。

似た虫 ヒメミズスマシ(4.6~5.2 mm) : 多い。

コミズスマシ(4.9~5.6mm) : 小さくてすばしっこい。多い。

ミズスマシ(6~7.5mm) : きわめてまれ。



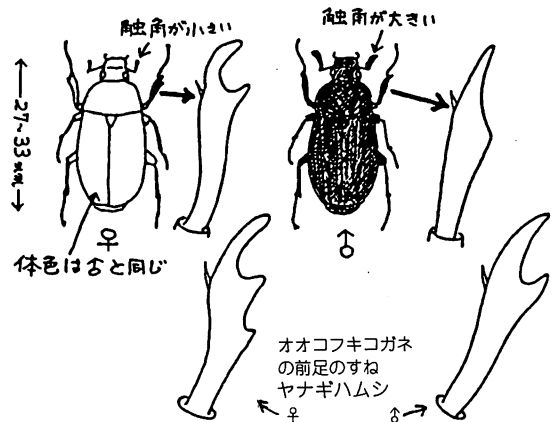
211 サツマコフキコガネ (コガネムシ科)

時期 6~8月

場所 森林やその周辺部。

解説 「薩摩の粉を吹くコガネ虫」の名のとおり、こげ茶の地色に白っぽい毛が密生し、粉を吹いたように見える。手でつかむと毛がとれて光沢ができる。クリ、クヌギの葉などに群生することがある。

似た虫 オオコフキコガネ: 地色のこげ茶色が濃い。前足のすねの突起数もちがう。



212 マメコガネ (コガネムシ科)

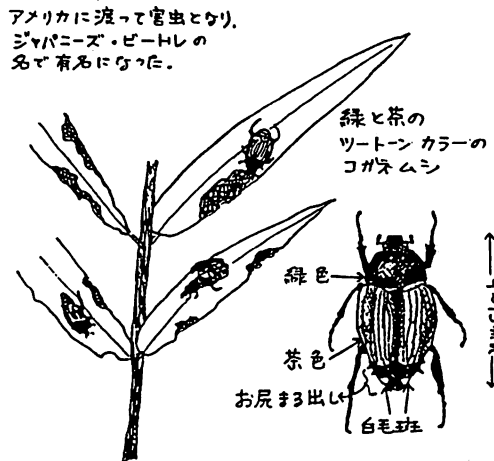
時期 5~10月, 年1回の発生?

場所 畑やその周辺, 山道に沿ったやぶ, 低木の葉上。

解説 成虫は昼間に活動し、マメ科植物各種のほか、ブドウの葉も好み害虫として嫌われることがある。山道ではヤナギなどいろいろな植物に群生している。夜の灯火には飛来しない。

卵は地中に産まれ、幼虫は若い根などを食べる。

似た虫 いない。

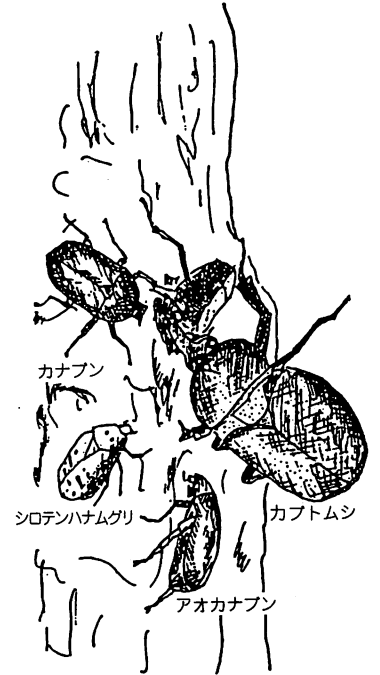
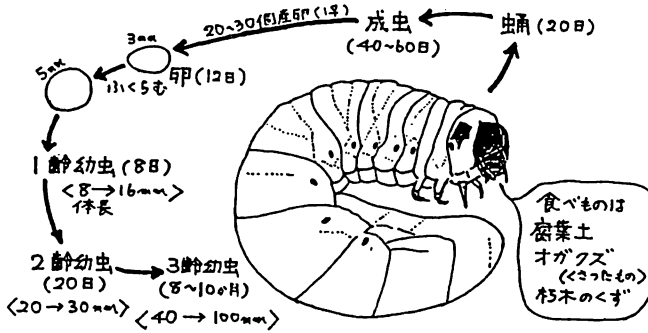


アメリカに渡って害虫となり、ジパング・ピートシの名で有名になった。

210 カブトムシ (コガネムシ科)

時期 6月下旬～8月

場所 シイ・カシ類の多い森林、クヌギ、コナラ、クリなどの林。人里にも多い。



体色は銅色・緑銅色・緑色の型がある。

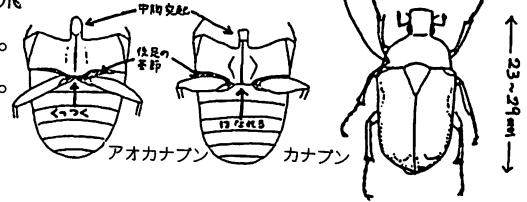
213 カナブン (コガネムシ科)

時期 7～8月

場所 森林、樹液の出るカシ・クヌギなどの林。

解説 昼間、樹液にぶんぶん飛びまわりながら集まってくる。カブトムシやコガネムシ類とは飛び方、前羽の開き方がちがうので、よく見よう。

似た虫 アオカナブン：緑色に光る美しい虫。カナブンの緑色型に似ている。



214 シロテンハナムグリ (コガネムシ科)

時期 5～9月上旬。

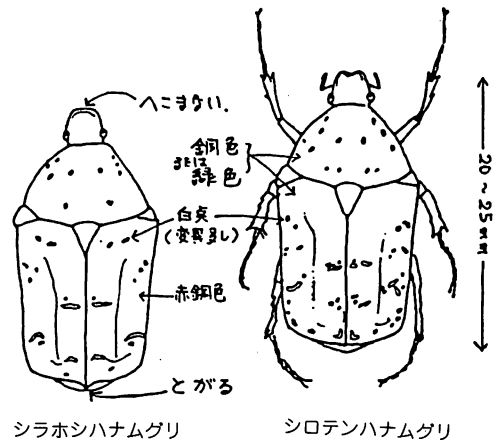
場所 森林、シイ・カシなど樹液の出る木の周り。

解説 昼間、樹液に集まる。名に反して花には来ない。幼虫は腐葉土を食べるので、カブトムシと同じように飼育できる。

コガネムシ類の幼虫はカブトムシの幼虫に似るが小さい。鹿児島の方名“つぼむし”。

似た虫 シラホシハナムグリ：数は少ないが樹液のあるところで見つかる。

小形で毛の多いハナムグリ、コアオハナムグリなどは、花に集まる。



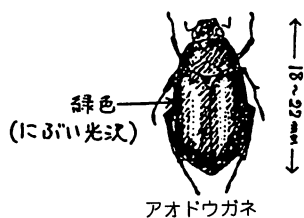
215 アオドウガネ (コガネムシ科)

時期 7～8月

場所 森林 樹林の多い人里。

解説 いろいろな草木の葉を食べる。その種類を調べてみよう。夜間、灯火によく飛んで来る。

似た虫 ドウガネブイブイ (銅鉦蚕蚕) : ひとまわり大きくて、銅色 (にぶく黒褐色に光る)。

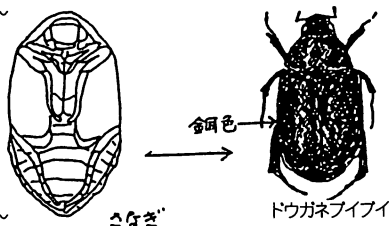


(メモ) ぶいぶいとは、ぶうぶううるさく文句をいって人にうるさがれる者。

思いあたりますか? だからこんなことになるのです。

「こがねむし 投げうつ やみの深ささかな」

これほど身近な虫なのでしょう。



216 タمامシ (タمامシ科)

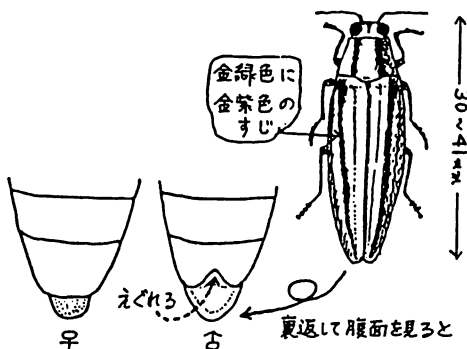
時期 7～8月

場所 エノキの大木の樹冠、枯れかかった枝や衰弱した木の材部に産卵し、幼虫も材を食べるので、そのような木をさがす。

解説 エノキのほかサクラ、カシ類にも卵を産みつける。幼虫は3～4年かかって材を食べるので、枝が枯れることがある。むかしはまき割りの時によく幼虫が出てきた。

成虫はなにも食べず、飼育はむづかしい。

似た虫 ウバタمامシ?



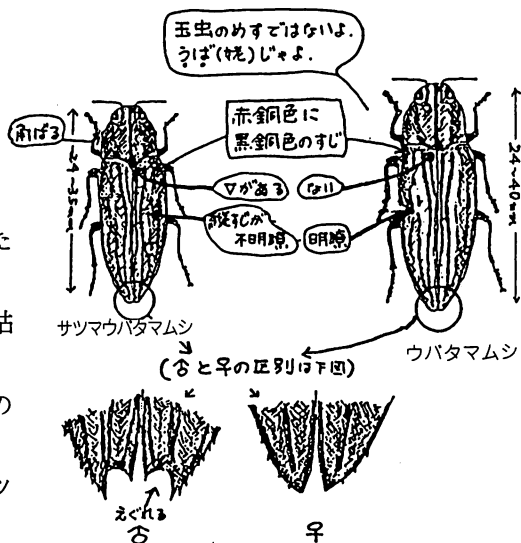
217 ウバタمامシ (タمامシ科)

時期 6～8月に多いが、成虫で越冬したものが春にも見られる。

場所 松林、新しく切り倒されたマツ、枯死したマツ。幹のまわりをさがす。

解説 幼虫は枯れたクロマツ、アカマツの2～3年後、樹皮下で蛹化する。

似た虫 サツマウバタمامシ: やはりマツにつく。昔は多かったが今は?



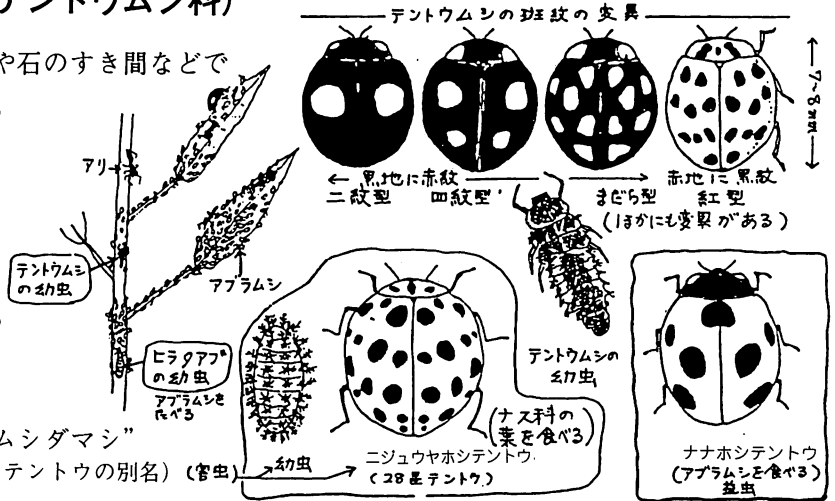
218 テントウムシ (テントウムシ科)

時期 1年中。樹皮や石のすき間などで
集団越冬。年数回発生。

場所 畑や荒地で
アブラムシ類の多いと
ころ。

解説 成虫も幼虫も
アブラムシ類を食べる。

似た虫 たくさんい
るが、これだけは間違
わないで… “テントウムシダマシ”
(ニジュウヤホシテントウの別名) (害虫)



219 ゴマダラカミキリ (カミキリムシ科)

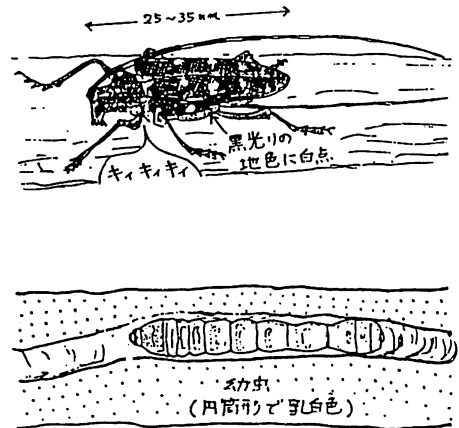
時期 6月下旬～8月。

場所 低山地，人里付近。

解説 ミカン，センダン，アカメガシワなど
の木に飛来し，幹をかじって皮下に産卵する。
幼中は幹の中を掘り進む“鉄砲虫”。ミカン
の害虫ではあるが，鹿児島県産カミキリムシ類
300種の代表。よろしく！

卵から成虫になるまで2年かかる。

似た虫 キボシカミキリ：黄白色斑がある。

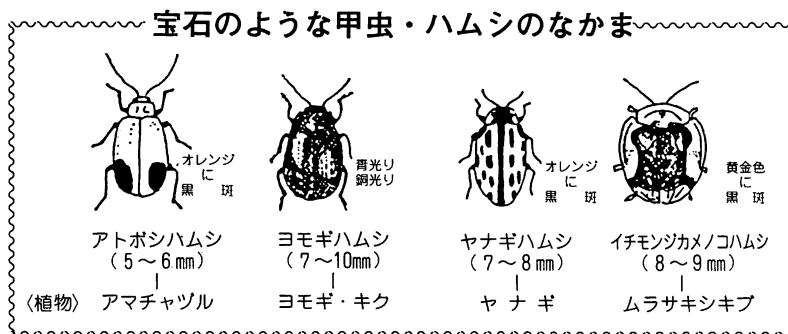
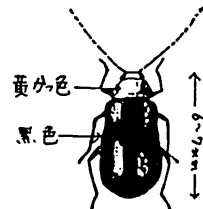


220 クロウリハムシ (ハムシ科)

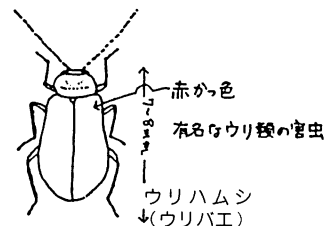
時期 一年中見られる。

場所 人里や畑のまわり，低山地。霧島山高千穂峰など
高い山の頂上にも多数吹き上げられてくる。

解説 カラスウリなどウリ類のほかエノキなどにもつく。



似た虫



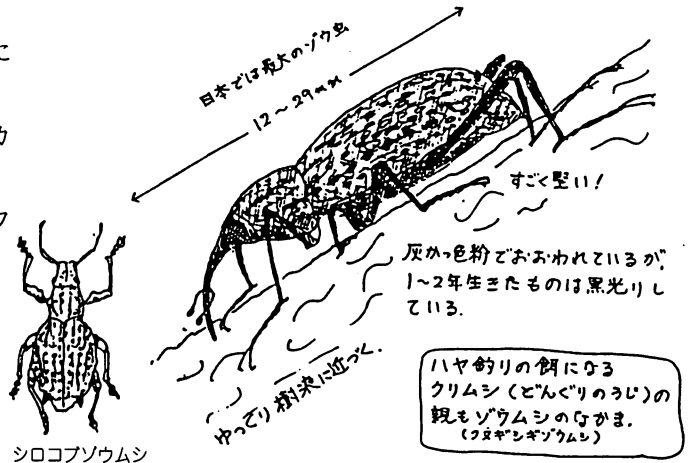
221 オオゾウムシ (オサゾウムシ科)

時期 一年中。成虫で1～2年生きるものがある。

場所 クワガタムシなどといっしょにクヌギ、カシ類の樹液に来ている。

解説 幼虫はマツ、スギ、クヌギ、カシ類の枯れ木に潜入する。

似た虫 シロコブゾウムシ：ハギ、フジ、クズなどマメ科植物の葉上に多い。体長15～17mm。白かっ色。



シロコブゾウムシ

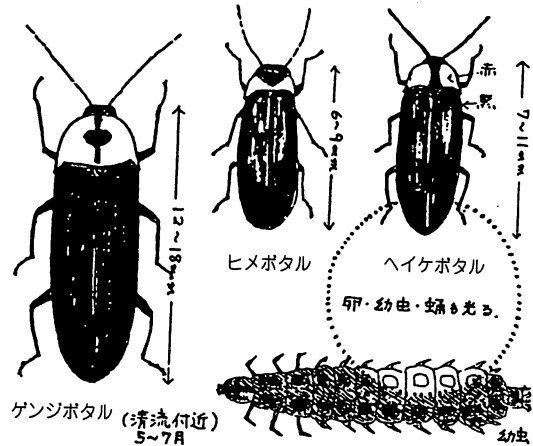
222 ヘイケボタル (ホタル科)

時期 5～11月。幼虫のすむ環境がいろいろあるので出現期はばらつく。6～7月に多い。

場所 池、湿地、小川の近く。

解説 浅い池や田んぼの溝川など少し汚れた水にも住み、幼虫はモノアラガイなどの貝を食べる。

似た虫 ヒメボタル：幼虫は陸生でカタツムリを食う。5～7月、林の中で輝くように光る。メスは飛べない。



ゲンジボタル (清流付近) 5～7月

223 クロオオアリ (アリ科)

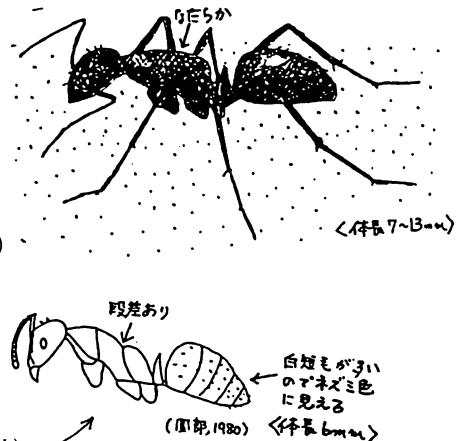
時期 4～11月

場所 日当りのよい乾燥地、草地、アブラムシ、カイガラムシのついた低木。

解説 庭や畑道で見かける黒い大きなアリ。死んだ虫などを食べ、木に登ってアブラムシなどの甘露(分泌液)もなめる。

働きアリと兵アリの区別はつけにくい。羽アリの飛出しは5月下旬の昼間で夜、電灯に飛来することはない。巣の出入口はむき出しになっている。

似た虫 ハヤシクロヤマアリ (平地)、クロヤマアリ (山地)



224 コガタスズメバチ (スズメバチ科)

時期 一年中いるが、7～10月が多い。

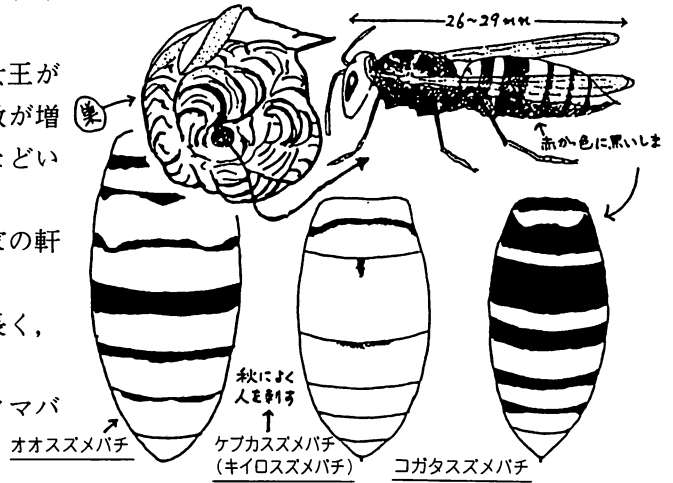
場所 山地から人里付近。樹液やヤブガラシなどの花のまわり。

解説 朽木などで越冬した一頭の女王が5月から巣作りを始め、夏から秋に数が増える。幼虫の餌はアブ、ハエ、ハチなどいろいろな昆虫。

巣はイヌマキなど低木の枝。時に人家の軒先、電線につくる。

似た虫 ヒメスズメバチ：腹が細長く、先が黒い。

※ 鹿児島ではスズメバチ類を“クマバチ”とよぶことがある。



225 フタモンアシナガバチ (スズメバチ科)

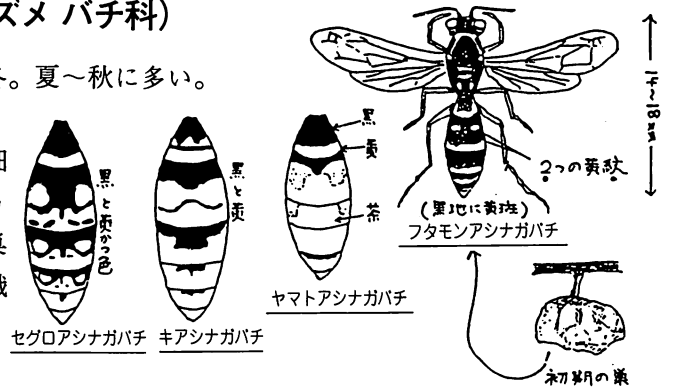
時期 メスが一頭または集団で越冬。夏～秋に多い。

場所 山地～人里。

解説 餌になるアオムシ類の多い畑や樹木などの近くに巣をつくる。チョウ、ガの幼虫を“肉だんご”にして巣に運び、幼虫に与える。巣は植物の繊維でつくり、一年で使いすてる。

似た虫 セグロアシナガバチ、キアシ

ナガバチ、ヤマトアシナガバチ、キボシアシナガバチ、コアシナガバチ



226 クマバチ (コシブトハナバチ科)

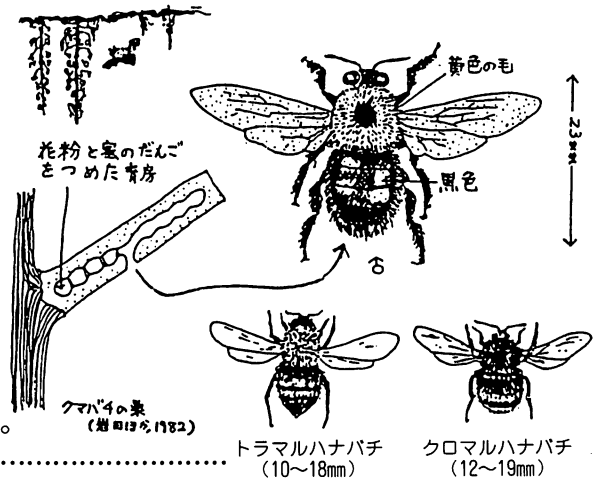
時期 4～10月

場所 フジなどの花のまわり、ひらけた丘の頂上、低山地～人里。

解説 スギ、ヒノキ、サクラなど朽木、枯れ枝にトンネルをほって5～7個の子供部屋を一列に並び、花粉塊をつめて産卵する。

花に来ているもののほか、空中でおいかけっこをしているオスが目につく。

似た虫 いない。しいてあげれば……………



227 ミツバチ (ニホンミツバチ) (ミツバチ科)

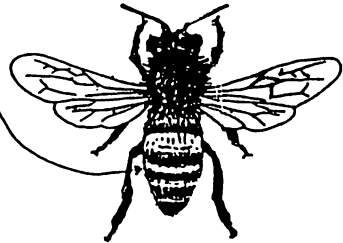
時期 3月下旬～10月下旬

場所 樹林近くの野生種の花が多いところ。あでやかな栽培種の花は蜜が少ないのか、あまり好まれない。

解説 日本の在来種で昔は飼育されていた。大木の幹の割れ目などに巣をつくる。

似た虫 ヨウシュミツバチ：“洋種”の名のとおり西洋からの移入種。飼育される。暖かいと冬でも活動する。

腹の黒いのは日本蜜蜂に多い。洋種にもいるが少ない。



↑ 10～15mm ↓

後羽でわかる

ヨウシュミツバチ



ニホンミツバチ



はたらきバチ



↑ 14mm ↓

ニッポンヒゲナガハナバチ (春にレンゲ田でゴカしてみよう)

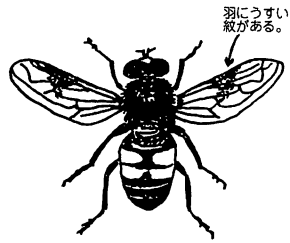
228 ハナアブ (ハナアブ科)

時期 3～11月

場所 花の咲いている明るいところならどこにでもいる。とくにキク科、セリ科の花に多い。春はネギやニンジンの花、秋にソバの花、冬はヤツデの花でよく吸蜜する。

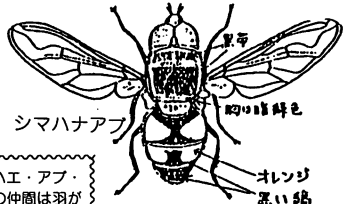
解説 幼虫は汚水の中で生活する長い尾があるウジ。成虫はハチに似ているが刺さない。

似た虫 シマハナアブ：同じようなところにいるが小型(10～12mm)で胸が暗緑色。



↑ 12～26mm ↓

羽にうすい紋がある。



↑ 10～15mm ↓

シマハナアブ

黒帯

薄い暗緑色

オレンジ

黒い縞

(腹の紋は変異が多い)

ハエ・アブ・カの仲間は羽が2枚しかない。ハチは4枚羽。ハナアブとハナバチをまちがわないよう！ 素手でつかまえる時は羽の数をよく確かめること。

とび入り

229 ウシアブ (アブ科)

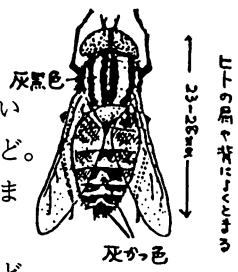
時期 7～8月

場所 牧場や畜舎の周辺、涼しい木かげや川べり、橋の下、林間など。

解説 幼虫は湿った地中で一年または二年(?)で成虫になる。

牛馬などのほか、ヒトの背中などに音もなくとまって血を吸うこともある。ご用心！ だけど、これがない自然なんて……。

似た虫 アカウシアブ：林間にいる。



↑ 23～25mm ↓

灰黒色

灰かき色

300種の望にもれたハエの代表
ヤツデの花に集まり白なびぼんの好きなホネカクローバエ
ケブカクローバエ
夏は高山で遊歩?



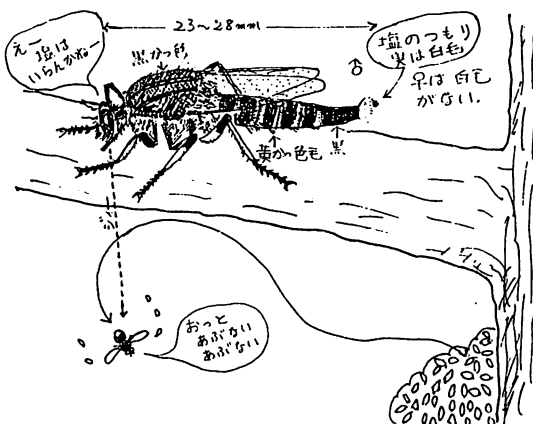
230 シオヤムシヒキ (ムシヒキアブ科)

時期 6月～9月。夏休みの頃多い。

場所 平地～山地の林縁，人家周辺。
市街地の街路樹にいることもある。

解説 卵は地中に産卵する。幼虫はコガネムシの幼虫を食う。成虫は見晴らしのよい葉上などにとまり，コガネムシなどをつかまえて，体液を吸う。うっかり手づかみすると刺されるから注意。

似た虫 アオメアブ：目が青緑色。
トラフムシヒキ：海辺の松林に多い。



《参 考 文 献》

原色日本昆虫図鑑(下)	1981		保 育 社
原色日本蝶類図鑑	1976	川副昭人・若林守男	〃
原色日本蝶類生態図鑑(I～IV)	1982～84	福田晴夫ほか	〃
原色日本蝶類幼虫大図鑑(I・II)	1979～82	白水隆・原章	〃
原色日本昆虫生態図鑑(I～III)	1969～72	小島圭三ほか	〃
原色日本甲虫図鑑(II～IV)	1984～85	上野俊一ほか	〃
原色日本蛾類幼虫図鑑(上・下)	1965・69	一色周知ほか	〃
原色昆虫大図鑑(I～III)	1959～65	井上 寛ほか	北 隆 館
日本昆虫図鑑	1954	石井 悌ほか	〃
日本幼虫図鑑	1959	河田 党ほか	〃
日本産蝶類大図鑑	1975	藤岡知夫	講 談 社
日本産蛾類大図鑑(I・II)	1982	井上 寛ほか	〃
日本蛾類生態図鑑	1982	岩田久二雄	〃
蛾類生態便覧(上・下)	1983	宮田 彬	昭和印刷出版事業部
大阪の昆虫(陸生編I)	1978	日浦 勇ほか	大阪市立自然史博物館
第5回特別展「鳴く虫」解説書	1978	〃	〃
日本の重要な昆虫類(南九州・沖縄版)	1980	環境庁(編)	大蔵省印刷局
セミの生態と観察	1975	橋本治二	ニュー・サイエンス社
チョウの幼虫の形態	1980	牧林 功	〃
日本産トンボ大図鑑(I・II)	1985	浜田 康・井上 清	講 談 社
日本産トンボ幼虫・成虫検索図説	1988	石田昇三ほか	東 海 大 出 版 会

この解説集に取りあげられた
路傍300種（昆虫90種）に含まれない昆虫

ア	No.	ケ	ノ
アオカナブン	(213)	ケブカクロバエ	ノシメトンボ
アオハダトンボ	(141)	ケブカスズメバチ	(152)
アオメアブ	(230)	ケラ	ハ
アカアシクワガタ	(208)	ゲンジボタル	ハナムグリ
アカウシアブ	(229)		(214)
アカスジカメムシ	(168)	コ	ハネナガヒシバツタ
アキアカネ	(152)	コアオハナムグリ	(162)
アトボシハムシ	(220)	コオニヤンマ	ハネピロトンボ
アミガサハゴロモ	(175)	コカマキリ	(153)
イ		コシアキトンボ	ハヤシクロヤマアリ
イチモンジカメノコハムシ	(220)	コバネイナゴ	(223)
イチモンジチョウ	(195)	コジャノメ	ハラピロカマキリ
ウ		コノシメトンボ	(156)
ウスイロコノマチョウ	(198)	コブナナフシ	ハラボソトンボ
ウスバカゲロウ	(180)	コミズスマシ	(150)
ウスバカマキリ	(156)	サ	ヒ
ウチワヤンマ	(145)	サツマウバタマムシ	ヒグラシ
ウメエダシヤク	(203)		(174)
ウラギンスジヒョウモン	(192)	シ	ヒシバツタ
ウラギンヒョウモン	(192)	シオヤトンボ	(162)
ウラナミジャノメ	(196)	シマハナアブ	ヒナカマキリ
ウリハムシ	(220)	ジャコウアゲハ	(156)
エ		ショウリョウバッタモドキ	ヒメアカタテハ
エゾハルゼミ	(173)	シラホシハナムグリ	(193)
オ		シルビアシジミ	ヒメアカネ
オオアメンボ	(169)	シロコブゾウムシ	(152)
オオイトトンボ	(144)	シロスジトモエ	ヒメアメンボ
オオウギンスジヒョウモン	(192)	ス	(169)
オオウラギンヒョウモン	(192)	ステノバハゴロモ	ヒメカマキリ
オオカマキリ	(156)	スジグロシロチョウ	(156)
オオクロバエ	(229)	スジクワガタ	ヒメジャノメ
オオクワガタ	(209)		(197)
オオゴキブリ	(157)	セ	ヒメシロオビアワフキ
オオコフキコガネ	(211)	セグロアシナガバチ	(176)
オオスズメバチ	(224)	セスジイトトンボ	(224)
オオツノトンボ	(179)	タ	ヒメハルゼミ
オオチャバネセセリ	(181)	タイリクアカネ	(222)
オオハラピロトンボ	(149)	タイワンエンマコオロギ	(207)
オキナワリチラス	(204)	タイワンクツムシ	(192)
オナガアゲハ	(186)	タイワントビナナフシ	ミナミアオカメムシ
カ		タガメ	(167)
カヤキリ	(166)	チ	ミナミヤンマ
カラスアゲハ	(186)	チビクワガタ	(148)
キ		チャバネセセリ	ミヤマアカネ
キアシナガバチ	(225)	ツ	(152)
キイロサナエ	(146)	ツマキチョウ	ミヤマカラスアゲハ
キトンボ	(152)	ツマグロキチョウ	(186)
キバネツノトンボ	(179)	ト	ミヤマカワトンボ
キボシカミキリ	(219)	ドウガネブイブイ	(142)
キョウチクトウスズメ	(199)	トゲナナフシ	ミヤマクワガタ
ク		トゲヒシバツタ	(208)
クサカゲロウ	(180)	トビナナフシ	ミンミンゼミ
クヌギシギゾウムシ	(221)	トラフムシヒキ	(171)
クモガタヒョウモン	(192)	トラマルハナバチ	ム
クルマバツタ	(163)	ナ	ムスジイトトンボ
クローアゲハ	(186)	ナツアカネ	(144)
クロイワツクツク	(174)	ナナフシモドキ	ムラサキツバメ
クロゴキブリ	(157)	ナナホシテントウ	(189)
クロスジギンヤンマ	(147)	ニ	メ
クマルハナバチ	(226)	ニジュウヤホシテントウ	メスグロヒョウモン
クロヤマアリ	(223)	ニッポンヒゲナガハナバチ	(192)
		ニワハンショウ	モ
		ネ	モンキチョウ
		ネキトンボ	(187)
		ネプトクワガタ	ヤ
			ヤスマツトビナナフシ
			ヤナギハムシ
			(220)
			ヤブキリ
			(166)
			ヤマトアシナガバチ
			(225)
			ヨ
			ヨウシュミツバチ
			(227)
			ヨナグニサン
			(201)
			ヨモギハムシ
			(220)
			リ
			リスアカネ
			(152)
			リュウキュウオオスカシバ
			(200)
			リュウキュウベニイトトンボ
			(143)
			合計 153種
			これに路傍90種を加えると
			243種

